健康栄養学科

大久保 剛 小嶋 文博 神田 あづさ 佐々木 裕子 谷内一彦相澤恵美子氏家幸子菅原詩緒理

鈴木寿則山城秋美矢島由佳

1. 教員個別表

	オオクボ タケシ	職 名	准教授	取 得 学 位 博士(水産科学)
氏 名	大久保 剛	人間学部	健康栄養学科	(大学名) 北海道大学 (取得年月) 2010 年 09 月

2. 教育•研究業績表

教育実践上の主な	業績 年月(西暦)	概 要
1. 椙山女学園大学 食品栄養学科特別講座(大学院修士課程	2018.08.21~22 2)	大学院修士課程向けの集中講義を実施した。特に時計栄養学、DOHaD 研究などを自分が実施した実験結果を交えながら概説した。栄養学でも 比較的最近話題になっているテーマを中心に概説を行った。
2. 講義(食品加工学実習)	2015. 04~	健康栄養学科3年生の受講科目。管理栄養士国家試験受験資格取得必修科目、フードスペシャリスト受験資格取得必修科目。 身近な加工食品の試作を通して、それらの原材料や使用食品添加物に関する知識、および製造工程や加工技術などを学習することを目的としている。現代に欠かせない加工食品について、加工食品の意義、食品素材の生産、特性、加工、貯蔵とそれらに関わる製造原理・製造技術を理解すること。また、管理栄養士が関わる分野の食品開発について実践のための基礎を養うことを到達目標としている。
3. 講義(食品機能論)	2015. 04~	健康栄養学科 4 年生の受講科目。食品衛生管理者及び食品衛生監視員任用資格取得必修科目、フードスペシャリスト受験資格取得必修科目。食品の三次機能である、生体調節機構について基礎知識を習得する。また、社会に流通している特定保健用食品や栄養機能食品の制度について理解を深めることを目的としている。具体的には、食品に含まれている成分の生理機能について理解を深め、食事の重要性を認識する。食品に含まれている成分と生理機能を説明し、食と健康の関係を理解していくことを到達目標としている。
4. 講義(食品学実験Ⅱ)	2016. 04~	高校時代に文系コースに在籍していた学生も入学しているため、機器操作などに習熟していない学生が散見される。そのため、食品学実験 I

		では基本的な機器操作及び定性実験を中心に、食品学実験 II では、身近な食品中の栄養素の定量分析(たんぱく質、脂質、炭水化物を中心に定量)を行っている。経験値を増やすことと、基本操作の重要性を指導の課題とし、実験の経験値が低いため、実験が上手く行くことでモチベーションを高められるような構成に工夫をしている。
5. 講義(食品開発論)	2018. 10~	会社員の経験を活かして、実際に食品企業においてどのように製品が 企画され、製造され、販売されていくかを概説した。参考書に頼らず、自ら の経験を元に講義を組み立てている。
	2019. 10~ 2021. 03	管理栄養士養成課程であるため、3大エネルギー栄養素を中心に消化、吸収など臓器のメカニズムを分かりやすくするように努めた。また、代謝経路などは極力、図などを多用して視覚的に理解させることを行った。

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動							
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数	
○学術論文(査読有) 1. 脂質系栄養素:コリンの普及に際し、アメリカの 現状から	共著	2017	日本脂質栄養学, Vol.26, No.1	日比野 英彦		89-106	
2. Roe-derived phospholipid administration enhances lymphatic docosahexaenoic acid-containing phospholipid absorption in unanesthetized rats.	共著	2017	Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 2017 Jun 28. pii: S0952-3278(17)			30022-4.	
3. The delaying effect of alpha-glycerophosphocholine on senescence, transthyretin deposition, and osteoarthritis in senescence-accelerated mouse prone 8 mice.	共著	2018	Biosci Biotechnol Biochem. 2018 Apr;82(4)	Matsubara K, Okuda M, Shibata S, Miyaki S, <u>Ohkubo T,</u> Izu H, Fujii T.		647-653.	

4. 東日本大震災の被災地における睡眠状況について一継続的な睡眠状況の調査例(気仙沼市と陸前高田市)-	共著	2019	日本睡眠環境学会誌 2019 13/14(1)	神田あづさ 菅原詩緒里 大久保 剛	11-14
5. Relationships Between the Purposes of Taurine-Contained Nutritional Drink Intake and Lifestyle Habits: A Cross-Sectional Survey of Workers in Japan.	共著	2019	Advances in experimental medicine and biology 1155	Ohtsuki M, Nishimura A, Kato T, Wakasugi Y, Nagao-Nishiwaki R, Shibata T, Okada H, Ohkubo T, Ma N	313 - 321
6. Distribution of 5-Methyltetrahydrofolate and Folic Acid Levels in Maternal and Cord Blood Serum: Longitudinal Evaluation of Japanese Pregnant Women.	共著	2020	Nutrients 12(6)	Kubo Y, Fukuoka H, Kawabata T, Shoji K, Mori C, Sakurai K, Nishikawa M, Ohkubo T, Oshida K, Yanagisawa N, Yamashiro Y.	1633.
7. 食物からのコリン摂取の重要性	単著	2020	ビタミン 94(11)	大久保 剛	539 - 544
8. Are lifestyle factors significantly associated with self-rated health among Japanese female healthcare students?	共著	2021	BMC Public Health 21(1)	Ohtsuki M., Wakasugi Y.,, Narukawa T.,, Uehara S.,, Ohkubo T.	505.
9. Comparison of the Physical Characteristics and Behavior in ABC Transporter A1, A7 or Apolipoprotein E Knockout Mice with Lipid	共著	2021	Biological & pharmaceutical bulletin 44(12)	Hiromi Tsushima, Kazuyo Yamada, Daisuke Miyazawa,	1851–1859

Transport Dysfunction.				Takeshi Ohkubo, Makoto Michikawa, Sumiko Abe-Dohmae	
○総説(査読なし) 1. シンポジウム I「バイオファクターについて考える~生合成・代謝と機能性発現機構を再考する~」食事によるコリン化合物摂取とその機能性	単著	2019	ビタミン Vol.93, No.4	<u>大久保 剛</u>	62-63
3. 脂質摂取による睡眠への影響	単著	2019	オレオサイエンス 19(7)	大久保 剛	279-284
4. コリンの重要性について	単著	2019	日本食品安全協会会誌 14(4)	<u>大久保 剛</u>	285-292
5. コリン化合物の重要性と運動機能への影響	単著	2020	オレオサイエンス 20(4)	<u>大久保 剛</u>	157 – 162
6. イクラ含有脂質による睡眠効果	単著	2020	アクアネット(12 月号)	<u>大久保 剛</u>	30 - 34
7. コリン化合物摂取の重要性	単著	2021	アグリバイオ 5(2)	<u>大久保 剛</u>	78 – 81
○著書 1.「成分表 2015 収載食品の特徴(油脂類)、食品表示法および機能性表示食品の概説」 「機能性食品表示への科学的なデータの取り方と表示出来る許容範囲」	共著	2017	「ステップアップ栄養・健康科学シリーズ5 食品学Ⅱ」共著化学同人 ISBN:4759818952		290-294
2. 【第 V 編 脳】第 6 章大豆ホスファチジルセリン	共著	2020	運動機能・認知機能改善食品 の開発 ISBN:978-4-7813-1507-2		49-74 115-123 139-154

3. 脂質摂取による睡眠への影響	単著	2020	水産油脂技術懇話会記録 一般財団法人 日本水産油脂 協会	278-284
4. 食べ物と健康 I [食品学総論]	共著	2022	八千代出版 ISBN:978-4-8429-1825-9	35-42 101-105
5. 食べ物と健康 Ⅱ [食品学各論]	共著	2022	八千代出版 ISBN:978-4-8429-1826-6	105-113 137-141

翻訳							
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表 (巻·号数)等(共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
なし							
学術研究発表							
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所			
本人発表分のみ							
1. 食事によるコリン摂取量の調査方法の検討(1)			2017	第 71 回日本栄養・食糧学会大会(沖縄)			
2. 秤量法による食事からのコリン化合物摂取量の	算出(1)		2019	第 73 回日本栄養・食糧学会大会(静岡)			
3. 食事によるコリン化合物摂取とその機能性(シンポジスト)			2019	第 71 回日本ビタミン学会大会(鳥取)			
4. 秤量法による食事からのコリン化合物摂取量の算出(2)			2020	第 72 回日本栄養·食糧学会大会(Web 開催)			
5. 幼稚園および保育園において食育に及ぼす絵本の効果			2020	第8回日本食育学会総会·学術大会(Web 開催)			
6. 食べ順による代謝への影響			2021	日本肥満学	⋛会∙日本肥満症	治療学会合同学術集会(web 開催)

Ι	所属学会		
	学会名	役職	入会年月(西暦)
	日本栄養・食糧学会		
	日本脂質栄養学会	評議員(2012~)	
3.	日本脂質生化学会		
4.	日本睡眠学会		

5. 日本睡眠環境学会	
6. 日本食品科学工学会	
7. 日本未病システム学会	
8. 日本肥満学会	
9. 日本薬理学会	
10. 日本神経精神学会	
11. 日本栄養改善学会	
12. 日本 DOHaD 研究会	
13. 日本微量元素学会	
14. 日本油化学会	

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)

15. 日本顕微鏡学会

助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
独立行政法人 科学技術振興機構	2011	研究成果最適 展開支援プログ ラム(A-STEP) フィージビリスタ ディ(FS)・ステ ージ シーズ顕 在化タイプ	研究代表者 課題番号 AS2311427E 課題名 コリン摂取と運動による健康増進プログラムの開発	7,180 千円
やずや食と健康研究所 研究 助成	2015		食事調査法を活用したコリン摂取量の算出方法の確立に向けた検討	1,500 千円
乳の学術連合「牛乳乳製品 健康科学」学術研究	2020		牛乳及び乳製品はコリン化合物摂取に役立つか?	1,340 千円
一般財団法人旗影会	2020		健診データを用いて検討した疾患とコリン摂取との関連	1,000 千円
公益財団法人 飯島藤十郎記 念食品科学振興財団	2020		コリン化合物摂取による高齢者の認知機能改善効果	850 千円

科学研究費助成事業 基盤研究 B	2021	コリン供給体としてのグリセロホスホコリン ー機能および吸収機構の解明から利用へー(研究分担者)	
科学研究費助成事業 基盤研究 C	2022	妊娠可能年齢女性を対象とした葉酸投与による n-3 系脂肪酸及びコリン代謝への 影響(研究分担者)	

〇 講師

公益財団法人 神経研究所 睡眠健康推進機構+文部科学省共同事業 学校訪問型睡眠講座ねむりんねっと 講師 2020~

1. 教員個別表

フリガナ	オジマ フミヒロ	職	名	教授	取得学位	薬学博士	
氏 名	小嶋 文博	人間学	部	健康栄養学科	(大学名)	東北大学	(取得年月) 1990年3月

2. 教育•研究業績表

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
生化学 I の教科書(スタディ生化学)の執筆	2021.8.20	スタディ生化学(建帛社,編著:渡邊敏明)の第9章(タンパク質・アミ
		ノ酸の基礎, 76~88 頁)・第 10 章(タンパク質・アミノ酸の代謝, 89~
		102頁)を分担執筆した。
食品学 I の教科書(三訂マスター食品学 I)の執筆	2021.4.20	食べ物と健康三訂マスター食品学 I (建帛社, 編著: 小関正道, 鍋谷浩
		志)の第2章(食品成分表, 13~36頁)を分担執筆した。
健康栄養研究法 I·Ⅱにおける教育実践	2021 前期·後期	健康栄養研究法は、いわゆるゼミである。2021 年度のゼミ生は 2 名
		のみであったが、各自テーマの異なる論文を読み、パワーポイントに
		まとめた上で発表するということを繰り返した。実験では DPPH を
		用いたラジカル捕捉活性に基づく各種飲料の抗酸化性について調べ
		た。また動物細胞の培養について、実験操作を中心に指導した。また
		2021 年度ゼミ生の 1 つの目標(課題)として、 登録販売者の国家試験 に
		合格することを掲げた。私はWEB上でできる練習問題を作成し、こ
		れを繰り返し解かせることで、2人とも合格することができた(宮城県
		の合格率 43.4%に対して、私のゼミ生は 100%)。さらに小嶋ゼミで は、座学ゼミ1コマ以外に、運動ゼミ1コマを設け、前期は主に硬式
		は、座子とく114k以外に、運動とく114kを設け、前期は主に使れ
		もある程度上達させることができた。
	2021 前期	この科目はオムニバス形式(5人)で、私の担当分は1回であったが、
日本不良沒自血に6017 0款月天成	2021 [1]70]	私の役割は毎回学生に管理栄養士国家試験過去問から、特定の分野に
		関して 100 問の課題を WEB 上で出題することであった。 学生はその
		100 問について1週間のうちに何度か練習で解いてみることになって
		おり、翌週の演習時にペーパー試験を担当者が実施する。そのペーパ
		一試験の準備と採点を行うことも私の役割となっており、これを初回
		から 15 回連続で担当した。これにより、学生は 1,500 問の過去問を
		解いたことになるので、国試対策の1つとして役立っているものと思

	I	2 2 - 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
		われる。またこの演習の授業後も、管理栄養士国家試験の過去問 1,500 問は繰り返し解けるように設定した。
管理栄養演習Iにおける教育実践	2021 後期	この科目はオムニバス形式(4人)で、私の担当分は3回であった。この3回で生化学の総復習ができるよう、3回ともパワーポイントを用いた講義中心の授業を行い、演習問題としてWEB上で管理栄養士国家試験の過去問100題程度を繰り返し解けるよう出題した。期末試験では1教員当たり20問の出題とされたので、国家試験過去問から20問を出題した。
生化学実験における教育実践	2021 後期	コロナ禍でも状況が改善したということで、通常の形態で授業を実施できた。15回の授業の中で、11回の実験レポートの提出を義務付けており、その1回ごとのレポート点は満点で3点としている。よって、レポート点は満点で33点となる。実験は2~3名のグループで行い、実験レポートはグループ内でその時の実験結果を見ながらディスカッションを行った上で完成させることにしている。期末試験は記述試験で、100点分を67点分に換算した。レポート11回分を33点、期末試験を67点で評価を行った結果、A組は平均69.2点、B組は平均75.7点であった。
生化学Ⅲにおける教育実践	2021 後期	A組とB組に分けて、すべて対面授業で実施した。教科書は前期の生化学 I で使用したものを継続して使い、教科書に沿って、授業内容はタンパク質の消化と吸収、アミノ基転移と酸化的脱アミノ反応、アミノ酸の脱炭酸反応、尿素回路と非必須アミノ酸の合成、ヘムの合成と分解・ビリルビン代謝、生体異物代謝(薬物代謝系)、遺伝子と核酸・核酸の構造と機能、核酸の合成と分解、DNAの複製・修復・組換え、転写(転写開始と伸長・プロセシング)、翻訳と翻訳後修飾、細胞間情報伝達、ホルモンによる恒常性維持、シグナル伝達とがん、糖質・脂質・アミノ酸代謝の相互連関とし、前年度まで授業内容に付加的に加えていた薬理学的な内容と薬と食事の相互作用、糖尿病・脂質異常症の薬、自律神経系・中枢神経系の薬の部分を削除した。教科書の変更に伴い、パワーポイントによる講義資料、配布資料等はすべて作り直しとなった。毎回、当日の授業内容に関する100点の小テストをmanabaで実施し、最終的な評価での成績点には40点分に換算した。期末試験では、選択問題と記述問題を含めた100点満点の試験を実施し、最終的な評価での成績点には60点分に換算した。小テスト40点と期末試験60点の100点満点で、A組は平均69.7点、B組は平均70.9点であった。付加

		的な部分の削除を行ったにも関わらず、学生の成績は前年度よりも下
		回った。
総合演習Iにおける教育実践	2021 前期	この科目はオムニバス形式で、私の担当分は2回であった。解糖と糖新生、クエン酸回路と電子伝達系、グリコーゲン代謝、脂肪酸代謝、
		ペントースリン酸回路、アミノ酸代謝と尿素回路に関する応用的・総
		合的な演習問題を解いてもらい、その解説を行った(A·B合同)。また
		課題として国家試験の過去問 100 問を WEB 上で出題し、繰り返し解けるようにした。
食品学Iにおける教育実践	2021 前期	コロナ禍のため、4月中の4回分だけ、リアルタイム型オンライン授
		業(ZOOM)となった。A·B 合同で、教科書は前年度とは異なるものを
		使用したため、同じ食品学Iではあるが、食品成分表についての解説
		が加わった。教科書の変更に伴い、パワーポイントによる講義資料、
		配布資料等はすべて作り直しとなった。毎回、当日の授業内容に関す
		る 100 点の小テストを manaba で実施し、最終的な評価での成績点
		には40点分に換算した。期末試験では、選択問題と記述問題を含め
		た 100 点満点の試験を実施し、最終的な評価での成績点には 60 点分
		に換算した。 小テスト 40 点と期末試験 60 点の 100 点満点で、A 組
		は平均 75.2 点、B 組は平均 73.0 点であった。
生化学Iにおける教育実践	2021 前期	コロナ禍のため、4月中の3回分だけ、リアルタイム型オンライン授
		業(ZOOM)となった。A·B合同で、教科書は前年度とは異なるものを
		使用し、授業内容は前年度よりも進め方を遅くしたため、代謝の扱い
		は脂質の代謝までとした(前年度はアミノ酸の代謝まで)。教科書の
		変更に伴い、パワーポイントによる講義資料、配布資料等はすべて作
		り直しとなった。毎回、当日の授業内容に関する100点の小テストを
		manaba で実施し、最終的な評価での成績点には40点分に換算した
		(中間テストは行わず、その回も通常の小テストとした)。期末試験で
		は、選択問題と記述問題を含めた 120 点満点の試験を実施し、最終的
		な評価での成績点には 60 点分に換算した。 小テスト 40 点と期末試験 20 よの 100 お洗まる A 紹は要ね 70 7 よ B 紹は要ね 77 9 よる
		験 60 点の 100 点満点で、A 組は平均 78.7 点、B 組は平均 75.8 点で なった
大機ルヴにかけて <u></u> ************************************	0001 前即	あった。
有機化学における教育実践	2021 前期	コロナ禍のため、4月中の3回分だけ、リアルタイム型オンライン授業(70000)はなった。4月の日本、教科書は比索はず、教者図書(2門)
		業(ZOOM)となった。A·B合同で、教科書は指定せず、参考図書(3冊)
		のみ提示した。授業内容については、物質の構成、原子構造と周期表、
		化学結合、物質量、酸と塩基、酸化還元反応、酵素反応と酸塩基平衡

		までは前年度と同様であったが、生体を構成する物質(有機化合物)については、糖質、脂質、タンパク質、核酸を中心に講義を行った。毎回、当日の授業内容に関する 100 点の小テストを manaba で実施し、最終的な評価での成績点には 40 点分に換算した(中間テストは行わず、その回も通常の小テストとした)。期末試験では、選択問題と記述問題を含めた 120 点満点の試験を実施し、最終的な評価での成績点には 60 点分に換算した。小テスト 40 点と期末試験 60 点の 100 点満点で、A 組は平均 75.6 点、B 組は平均 74.7 点であった。
管理栄養士国家試験の受験直前対策における教育実践	2021.2.28	2021年2月28日(日)実施の第35回管理栄養士国家試験の直前約10日間(2/18~2/27)に、管理国試模擬試験での低得点者(200点中100点未満)の学生を中心にとした51名を対象に直前対策講座を行い、約10日間で平均約45点の得点上昇を導き、国家試験合格率の維持に寄与した(前年93.3%→85.5%)。なお過去8年間分の国家試験問題を入力したが、科目・分野ごとの印刷は分担していただいた。
管理栄養演習皿における教育実践	2020 後期	この科目はオムニバス形式で、私の担当分は1回であったが、私の 役割は毎回学生に管理栄養士国家試験過去問から、特定の分野に関して100 問の課題をWeb上で出題することである。学生はその100 問について1週間のうちに何度か練習で解いてみることになっており、 翌週の演習時にペーパー試験を担当者が実施する。そのペーパー試験 の準備と採点を行うことも私の役割となっており、これを初回から15 回連続で実施した。これにより、学生は1,500 問の過去問を解いたことになるので、国試対策の1つとして役立っているものと思われる。
管理栄養演習 I における教育実践	2020 後期	この科目はオムニバス形式で、私の担当分は3回であったが、その3回で生化学に関する管理栄養士国家試験の34回分ができるよう資料とパワーポイントを準備し、ハイテンポで授業を行った。この授業は対面で実施できたが、実習関連で生じた規制のため大学に来れないという学生がいた場合には、対面と同時にオンラインでの対応も行った。
生化学実験における教育実践	2020 後期	生化学実験は A クラス、 B クラスごとに実施したが、そのクラス単位の人数ですら、三密を避けるためには、実験室で一度に実施することは困難であったので、まずはクラスを半分ずつに分けた(A グループ・ B グループ)。例えば、ある日は実験等の説明を A グループは実験験で聞き、 B グループは教室で B 00 B 0

		入れ替えを行う。A グループは教室で実験レポートを作成する。B グ
		ループは実験室で実験を行う。このようなことを毎回交替させて 15
		回分を実施した。実技的な説明の場では、教室で聞いているグループ
		には、実験室に設置したカメラの映像で見てもらった。このようなや
		りくりで実施したため、例年(通常)よりも急ぎ足の実験となってし
		サイザ (英麗 じたため、例中 (通常) よりも思さたの失級となりでし まった感じがした。レポート 11 回分を 30 点、期末試験を 70 点で評
		はらん感じがした。レポード II 固力を 30 点、朔不武線を 70 点 C H
	2020 後期	コロナ禍ではあるが、前期ほどの縛りがなくなり、三密を避けた教
生化子Ⅱにあける教育夫成	2020 仮朔	1
		室の最大収容人数内での対面授業が可能となったが、A・B 合同で授 ***********************************
		業をできるような教室がないため、2教室を用いた合同授業を実施し
		た。毎回、私が入る教室を換え、私のいない教室では、オンラインで
		パワーポイントと授業風景を映すこととした。ハード面での問題が
		少々あったため、授業評価はあまりよくなかった。講義内容では、情
		報伝達、恒常性と生体防御、赤血球と生体色素、器官の構造と機能、
		遺伝子解析、生活習慣病、薬理学総論(薬物代謝)、薬と食事の相互
		作用、糖尿病・脂質異常症の薬、自律神経系・中枢神経系の薬など幅
		広い知識を伝えるものとした。シラバス記載の配点を変え、小テスト
		30 点、期末試験 70 点で採点した結果、A 組の平均点は 70.5 点、B 組
		の平均点は 73.3 点であった。内容が難しいと思われるので、次年度
		からは付加的な部分は削除することを検討したい。
総合演習Iにおける教育実践	2020 前期	この科目はオムニバス形式で、私の担当分は2回であったので、内
		容を吟味し、解糖と糖新生、クエン酸回路と電子伝達系、グリコーゲ
		ン代謝、脂肪酸代謝、ペントースリン酸回路、アミノ酸代謝と尿素回
		路に関する応用的・総合的な演習問題を解いてもらい、その解説を行
		った (A・B 合同)。
食品学 I における教育実践	2020 前期	コロナ禍のため、授業開始が遅れ、初回が 5/15 であった。コロナ
		禍のため、すべてリアルタイム型オンライン授業で行うこととなり、
		15回の講義を ZOOM と manaba の併用で実施した(A・B 合同)。
		教科書は昨年とは異なる『栄養科学イラストレイテッド 食品学 I 』
		(羊土社)を使用した。講義資料は、オンライン対応ということもあ
		り、すべて作り直した。講義内容は、食品学Iのテキスト範囲すべて
		とした。毎回実施した小テストを 40 点分に換算し、復習課題のノー
		ト提出を 20 点、期末試験を 40 点として、総合的に成績を評価した。
		その結果、A 組は平均 82.5 点、B 組は平均 77.7 点であった。
	I	

生化学Iにおける教育実践	2020 前期	コロナ禍のため、授業開始が遅れ、初回が 5/11 であった。コロナ禍のため、すべてリアルタイム型オンライン授業で行うこととなり、15 回の講義を ZOOM と manaba の併用で実施した。しかも、他の実験・実習等の授業のため、座学の有機化学はクォーター制(週に 2 コマ)での実施となり、7 月初旬には終了した(A・B 合同)。 教科書は昨年とは異なる健康・栄養科学シリーズ『生化学』(南江堂)を使用した。講義資料は、オンライン対応ということもあり、すべて作り直した。併せて小テスト用問題もオンライン用として 15 回分を準備した。主な内容は細胞の構造や機能から、糖質、脂質、タンパク質(アミノ酸)、核酸、ビタミン、ミネラル、糖質代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝までをカバーした。毎回実施した小テストを 40 点分に換算し、復習課題のノート提出を 20 点、期末試験を 40 点として、総合的に成績を評価した。その結果、A 組は平均 74.6 点、B 組は平均75.0 点であった。
有機化学における教育実践	2020 前期	コロナ禍のため、授業開始が遅れ、初回が 5/12 であった。コロナ 禍のため、すべてリアルタイム型オンライン授業で行うこととなり、15回の講義を ZOOM と manaba の併用で実施した。しかも、他の実験・実習等の授業のため、座学の有機化学はクォーター制での実施となり、6 月末には終了した(A・B合同)。 教科書は昨年とは異なる『生理学・生化学につながるていねいな化学』(羊土社)を選び、物質の構成、原子構造と周期表、化学結合、物質量、酸と塩基、酸化還元反応、酵素反応と酸塩基平衡、生体を構成する物質について 11 回の講義を行った後、残りの 4 回の講義では有機化学の基礎(命名法、官能基、アルカン・アルケン・アルキン、アルコール、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル、アミン、アミド)について解説した。 毎回実施した小テストを 40 点分に換算し、復習課題のノート提出を 20 点、期末試験を 40 点として、総合的に成績を評価した。その結果、A 組は平均 74.5 点、B 組は平均 74.1 点であった。
戦略的入学前教育の実践	2020.3	令和元(2019)年度の学長裁量予算による助成を受け、推薦入試合格者と一般入試 A 日程の合格者を対象に入学前教育を行う計画であったが、新型コロナウイルスの影響のため、それが不可能となった。そこで、入学予定者全員を対象に『基礎栄養学ノート』を配布し、自宅での自学自習を行ってもらうこととした。その進度管理には ESS 管理栄養士という Web 上で問題を解いて正解と解説が出るシステムを

		田いた 一十
		用いた。一方、推薦入試合格者には、国語力を高めてほしいという要
		望に応じ、国語の添削指導を外注し、長文を100字にまとめる練習を
		健康栄養学科として3回実施した。この結果、受験生(推薦入試合格
		者)の国語力は高校時の成績(出身校の偏差値も含め)に正の相関性
		を示した。
管理栄養士国家試験の受験直前対策における教育実践	2020.3.1	2020 年 3 月 1 日(日)実施の第 34 回管理栄養士国家試験の直前約
		10日間 (2/20~2/29)に、管理国試模擬試験での低得点者(200点中100
		点未満)の学生を中心にとした35名を対象に直前対策講座を行い、約
		10 日間で平均約 45 点の得点上昇を導き、国家試験合格率の維持に寄
		与した(前年 86.8%→93.3%)。なお過去 7 年間分の国家試験問題を入
		力したが、科目・分野ごとの印刷は分担していただいたので、例年に
		比べるとかなり個人的負担は軽減した(前年度までは一人)。
	2019.11	内閣府認証 特定非営利活動法人 日本セルフケア支援薬剤師セン
SCHENNIA		ター(薬学検定事務局)が行う食の薬学検定試験の受験希望者を募り、
		健康栄養学科1年生から36名が出願した。受験対策資料と練習問題
		を配布し自学自習と練習問題による模擬試験を行うなどの対策を行
		一ったにも関わらず、2名の不合格者を出してしまった。31名が1級合
		格し、3名が2級合格であった。全体の合格率としては94.4%であっ
		情じ、5名が2版目情であった。主体の目情半としては54.4%であり。 た。
L 生化学Ⅱにおける教育実践	2019 後期	
生化子Ⅱにのける教育失成	2019 仮朔	
		含んだ内容となっている。教科書を変えたが(『N ブックス三訂生化
		学』(建帛社)→『栄養科学イラストレイテッド生化学第 3 版』(羊土
		社))、内容的には大きな変化はない。ただし、教科書に付随したノー
		ト(問題集)があり、それを使わせたので、学習の手助けとなったもの
		と思われる。また授業内に ESS 管理栄養士によって Web 上でその日
		の内容についての問題を授業内に解かせて自動採点を行った。また毎
		回 ESS 管理栄養士で国試の過去問を出しておき、次の授業時間の最
		初にその問題を解かせて採点して返却するということも行った。これ
		らは問題を解かせることで学習成果を上げるということを試みの姿
		勢である。また評価方法も前年度とは変えて、期末試験 100 点に、普
		段の取組み姿勢(小テストの出来具合で加点〜減点)を加味することと
		段の取組み姿勢(小テストの出来具合で加点〜減点)を加味することと した。その結果、最終的な成績評価では、A 組の平均点は 71.5 点、B

		問題を解かせ、その問題を次回までに復習することを課題として次回
		の授業の最初に紙ベースで小テストを行い回収し、採点して時間に返
		却するといったことを毎回続けていった。再履修者はなかなか身につ
		くような勉強をしたがらないので、課題のハードルを上げ過ぎると諦
		めてしまうので、同じ問題を解かせて高得点を取れるよう(勉強にや
		る気が出るよう)に配慮した。それでも最終的な成績評価では、平均点
************************************	0040 % #0	が 57.6 点となり、再々履修となる者が数名いた。
管理栄養演習Ⅲにおける教育実践	2019 後期	管理栄養演習Ⅲにおける私の主な役割は、毎回国家試験の過去問か
		ら100題を選び、それで試験問題を作成し、解答用紙とともに印刷し
		て準備をしておくこと、そして毎回の100問試験の回収された解答用
		紙を採点して返すことである。この 100 題は Web 上の ESS 管理栄
		養士で、学生が解いて練習しておけるようにしておくというもの私の
		役割である。これを 15 回繰り返したことにより、学生は 1,500 題の
		国試過去問を解いたことになり、後に行った国試直前対策で高い効果
		を上げるきっかけになったものと考えられる。
管理栄養演習 I における教育実践	2019 後期	健康栄養学科 3 年生を対象とした管理栄養士国家試験対策のため
		の講義で、3名の教員によるオムニバス形式によるものである。私は
		15 回中 5 回分を担当し、分野は「人体の構造と機能及び疾病の成り
		立ち」の生化学分野を担当した。すでに 33 回国家試験が実施されて
		いるので、その過去問全問を小分野ごとに配列し直したものを自作
		し、それを印刷したものをテキストとして使用した。また同問題のパ
		ワーポイント版を作成し、問題の解説に使用した。担当分の成績評価
		には 100 問の国家試験過去問を出題し点数をつけた。3 名の教員の合
		計 300 点満点のうち 180 点以上を合格とした。自分の担当分では 1
		度のみ再試験を実施した。私の担当分の平均点は80.5点と最も高か
		った。
食品学Iにおける教育実践	2019 前期	昨年同様に初めに 15 回分の予習・復習に使用できる自作課題プリ
		ント(A4 で 49 頁)を配布し、講義資料は毎回パワーポイントスライド
		の印刷物を配布した。最後に提出してもらう課題プリントは期末試験
		受験のための要件としてみなし、成績評価は期末試験(100 点)のみで
		行った。前年度と同じ評価方法で成績をつけたが、A 組の平均点が
		71.8 点、B 組の平均点が 75.1 点と前年度よりも低くなり、学年ごと
		の差であると考えられた。
総合演習 I における教育実践	2019 前期	健康栄養学科4年生を対象としたもので、管理栄養士の総合的実践
10 E M E 1 1 1 1 1 1 1 M E M E M E M E M E	-0.0 []77	KANDA TILL I TEMANE ON UNIVERSITY OF TANK TO PROPERTY

有機化学における教育実践	2019 前期	力を身につけるための演習科目である。私は15回中3回分を担当し、解糖・糖新生と臨床、クエン酸回路・酸化的リン酸化と臨床、アミノ酸代謝・尿素回路と臨床といった生化学が臨床に関わる部分での問題解決力の習得のために演習講義を行った。オムニバスのため、成績評価は6名の教員が出題した期末試験で成績評価を行った教科書には『基礎化学』(羊土社)、『身近な生物学』(羊土社)を使い、
		基礎化学→有機化学→生物化学の順で講義を行った。有機化学については、教科書は使用せず、私が作成した講義資料を主に用いた。昨年度に比べると、本格的な有機化学の部分を減らし、食べ物や生体関連物質を中心とした有機化学の内容とした。小テストを3回(基礎化学,有機化学,生物化学)行った上で、期末試験を実施し、総合的に成績を評価した。その結果、A組は平均84.8点、B組は平均89.5点であった。
健康栄養研究法Ⅰ・Ⅱにおける教育実践	2019 通年	健康栄養研究法はいわゆるゼミとよばれるものであるので、私のゼミでは輪講(英語文献)を中心としたゼミを行った。一方、座学のみならず、心身を鍛える目的で、週に1コマ分を運動の時間にあて、バドミントンをゼミ生全員に1年間通して行ってもらった。文武両道を実践できたものと考えるが、後期の最後のほうにゼミ論のための発表会(パワポ使用)を行ったが、それから学生には十分な実力はついていないように感じられたので、次のゼミ生からは、さらに工夫を凝らして鍛えることを試みたい。
戦略的入学前教育の実践	2019.3.14	平成 30 年度の学長裁量予算による助成を受け、推薦入試合格者全員に課題テキスト(化学・生物・数学関連)を送付し、それを 1 月末までに解いてもらい、難しかった問題(分野)はどれだったかをレポートで提出してもらった。この結果を受け、皆が共通して難しいと感じている分野について、 6 日間($3/5$, $3/7$, $3/8$, $3/11$, $3/13$, $3/14$)のスクーリングを行うことにした。一方、一般入試 A 日程での合格者には入学前教育(管理栄養士を目指す人のための入学前準備ゼミナール)を 6 日間のスクーリングと同日程で行うことを通知し、参加希望者を募った。これらの結果、管理栄養士を目指す人のための入学前準備ゼミナールに参加した合格者は 60 名もあり、そのうち 59 名が本学に入学を決めた(前年度入学者 74 名 $\rightarrow 87$ 名に増加)。
管理栄養士国家試験の受験直前対策における教育実践	2019.3.2	平成31年3月3日(日)実施の第33回管理栄養士国家試験の直前約10日間 (2/21~3/2)に、管理国試模擬試験での低得点者(200点中100

		点未満)の学生を中心にとした39名を対象に直前対策講座を行い、約
		10 日間で平均約 43 点の得点上昇を導き、国家試験合格率の維持に寄
		与した(前年 92.6%→86.8%)。
卒論研究における教育実践	2019.3	卒論研究を履修した2名の学生のうち、1名のみが実験系の卒論テ
		ーマに取組み、卒論研究指導のもと卒論を完成することができた。
		「とろみ調整食品の増粘多糖類に関する研究」
資格取得における教育実践(食の薬学検定試験)	2018.11	内閣府認証 特定非営利活動法人 日本セルフケア支援薬剤師セン
		ター(薬学検定事務局)が行う食の薬学検定試験の受験希望者を募り、
		健康栄養学科1年生と3年生から26名が出願した。受験対策資料と
		練習問題を配布し受験勉強をさせた結果、第1回食の薬学検定試験で
		あるにもかかわらず、全員が1級で合格し、合格率は100%であった。
健康栄養研究法における教育実践	2018 通年	健康栄養研究法はいわゆるゼミとよばれるものであるので、私のゼ
		ミでは輪講を中心としたゼミを行った。一方、座学のみならず、心身
		を鍛える目的で、週に1コマ分を運動の時間にあて、バドミントンを
		ゼミ生全員に1年間通して行ってもらった。文武両道を実践できたも
		のと考える。
生化学Ⅱにおける教育実践	2018 後期	生化学Ⅱは、生化学Ⅰの続きの部分と新たな部分とを含んだ内容と
		なっている。続きの部分に関しては、生化学 I の教科書を使用し、新
		たな部分に関しては、講義資料と課題プリントを兼ね備えたものを使
		用した。課題プリントは、生化学 I の続きの部分(A4 で 33 頁)と新た
		な部分(A4 で 48 頁)の 2 冊で、内容には「代謝の統合と組織」「遺伝
		子発現とその制御」「シグナル伝達」「生体防御と免疫の生化学」「医
		薬品の基礎知識と体内動態」「医薬品の作用と副作用」「薬物代謝系
		と薬物代謝酵素」「食品と医薬品の相互作用」「代謝・内分泌系に作用
		する薬」「末梢神経・中枢神経系に作用する薬」「循環器系に作用する
		薬」「抗炎症・抗菌・抗ウイルス薬」などを含めた。成績評価は、前年
		度と同様に全課題プリント提出(30点)と期末試験(70点)で行ったが、
		この学年は前年度の学年よりも得点が低く、A組の平均点は64.5点、
	46.11=	B組の平均点は 68.2 点であった。
生化学実験における教育実践	2018 後期	前年度と同様、教科書には『Nブックス生化学実験』(建帛社)を使
		用した。実験ごとに実験グループメンバーを変えて、実験レポートは
		グループごとに1報ずつ提出してもらった。レポートを作成するにあ
		たっては、グループ内での話合い(討論)を行ってもらうことで、アク
		ティブラーニング的要素を取り入れた。今回は、レポート提出 11 回

		分の総合点(33 点満点のうち 19.8 点以上)は期末試験受験のための必
		須条件とし、最終的な成績評価は期末試験を 100 点満点として行っ
		た。その結果、A 組の平均点は 71.1 点、B 組が平均 65.5 点であった。
管理栄養演習 I における教育実践	2018 後期	健康栄養学科 3 年生を対象とした管理栄養士国家試験対策のため
		の講義で、3名の教員によるオムニバス形式によるものである。私は
		15 回中 5 回分を担当し、分野は「人体の構造と機能及び疾病の成り
		立ち」の生化学分野を担当した。すでに 32 回国家試験が実施されて
		いるので、その過去問全問を小分野ごとに配列し直したものを自作
		し、それを印刷したものをテキストとして使用した。また同問題のパ
		ワーポイント版を作成し、問題の解説に使用した。担当分の成績評価
		には 100 問の国家試験過去問を出題し点数をつけた。3 名の教員の合
		計 300 点満点のうち 180 点以上を合格とした。自分の担当分では 1
		度のみ再試験を実施した。
有機化学における教育実践	2018 前期	教科書には『NEXT 基礎有機化学』(講談社サイエンティフィク)を
		指定したが、自作した A4 で 100 頁の講義資料(課題プリントを兼ね
		る)を中心に講義を行い、課題に答えるために教科書を使用させた。講
		義 15 回中に 4 回の小テスト(50 点満点)を行い、その合計が 120 点未
		満の者は期末試験を受験できないという条件であったが、該当する者
		が多かったため、補講と再試験を行い、受験資格を付与した。成績評価のようなでは、私にいまれている。
		価は期末試験(100 点)で行い、A 組は平均 72.0 点、B 組は平均 74.8
▲□兴 1.1-1-1-1-1-7-#- 本中叶	2010 幹期	点であった。
食品学Iにおける教育実践	2018 前期	昨年同様に初めに 15 回分の予習・復習に使用できる自作課題プリント(A4 で 49 頁)を配布し、講義資料は毎回パワーポイントスライド
		ント(A4 で 49 頁)を配布し、講義資料は毎回ハワーホイントスノイト の印刷物を配布した。最後に提出してもらう課題プリントは期末試験
		受験のための要件としてみなし、成績評価は期末試験(100 点)のみで
		支続のための委件としてみなし、成績計画は朔木武線(100 点)のみで 行った。そのため、A 組の平均点が 73.5 点、B 組の平均点が 76.6 点
		1972。 このため、A 温の平均点が 73.3 点、B 温の平均点が 70.0 点 と前年度よりも低くなった。
総合演習 I における教育実践	2018 前期	健康栄養学科4年生を対象としたもので、管理栄養士の総合的実践
心口,沒日工1~051,7 0 狄月大成	2010 hij #/]	力を身につけるための演習科目である。私は15回中3回分を担当し、
		解糖・糖新生と臨床、クエン酸回路・酸化的リン酸化と臨床、アミノ酸
		代謝・尿素回路と臨床といった生化学が臨床に関わる部分での問題解
		決力の習得のために演習講義を行った。成績評価のための点数化に
		は、課題に対して提出されたレポートを採点して評点とした。
生化学 I における教育実践	2018 前期	教科書を『Nブックス三訂生化学』(建帛社)から『栄養科学イラス
<u> </u>	-0.0 []70]	

		トレイテッド生化学第 3 版』(羊土社)に変えて講義を行った。そのため、講義用パワーポイントもマイナーチェンジを行った。自作の課題プリントの代わりに毎回の課題には『栄養科学イラストレイテッド生化学ノート第 3 版』(羊土社)を使用した。成績評価は、課題プリント提出を前提に期末試験(100 点)で行った。A 組は平均 68.2 点、B 組は平均 67.3 点であった。
管理栄養士国家試験の受験直前対策における教育実践	2018.3.3	平成 30 年 3 月 4 日(日)実施の第 32 回管理栄養士国家試験の直前約 1 週間(2/22~3/3)に、管理国試模擬試験での低得点者(200 点中 100 点 未満)の学生を中心にとした 26 名を対象に直前対策講座を行い、8~ 9 日間で平均約 35 点の得点上昇を導き、国家試験合格率の向上にした(前年 76.9%→92.6%)。
資格取得における教育実践(美容薬学検定試験)	2017.11	内閣府認証 特定非営利活動法人 日本セルフケア支援薬剤師センター(薬学検定事務局)が行う美容薬学検定試験の受験希望者を募り、健康栄養学科 1 年生 27 名が出願した。受験対策資料と練習問題を配布し受験勉強をさせた結果、1 級合格が 26 名、2 級合格が 1 名で合格率は 100%であった。
生化学Ⅱにおける教育実践	2017 後期	生化学 I は、生化学 I の続きの部分と新たな部分とを含んだ内容となっている。続きの部分に関しては、生化学 I の教科書を使用し、新たな部分に関しては、講義資料と課題プリントを兼ね備えたものを作成して配布した。課題プリントは、生化学 I の続きの部分($A4$ で 33 頁)と新たな部分($A4$ で 48 頁)の 2 冊となった。成績評価は、全課題プリント提出(30 点)と期末試験(70 点)で行った。 A 組の平均点は 80.4 点、 B 組の平均点は 79.9 点であった。
生化学実験における教育実践	2017 後期	前年度と同様、教科書には『N ブックス生化学実験』(建帛社)を使用した。実験ごとに実験グループメンバーを変えて、実験レポートはグループごとに提出してもらった。レポート提出 11 回(33 点)と期末試験(67 点)で成績評価を行い、A 組が平均 75.5 点、B 組が平均 73.2点であった。
生化学 I における教育実践	2017 前期	教科書を『基礎からしっかり学ぶ生化学』(羊土社)から『N ブックス三訂生化学』(建帛社)に変えて講義を行った。最初の講義の際に自作課題プリント(A4 で 54 頁)を配布し、講義資料は毎回パワーポイントスライドの印刷物を配布した。成績評価は、課題プリント提出(30点)と期末試験(70点)で行った。A 組が平均84.3点、B 組が平均86.7点であった。

食品学実験 I における教育実践	2017 前期	2017 年度の食品学実験 I の主な内容は 2016 年度とほぼ同様の内
		容であったが、実験を行うグループ分けを毎回乱数表で行い、レポー
		ト提出は各グループから 1 報提出してもらうこととした。これによ
		り、グループ内のメンバー同士のディスカッションの機会を増やせる
		ようにした(アクティブラーニングの導入)。期末に実技試験を1人
		ずつ行ったが、成績評価はレポート 13 回分(45 点)と期末試験(55 点)
		で行った。A 組の平均点は 76.8 点、B 組の平均点は 73.1 点で、学生
		による授業評価(5 点満点)では、「授業の計画性」4.60(4.72)、「授業
		の内容・評価」4.00(4.22)、「成績評価や授業環境」4.65(4.89)、「総合
		評価」4.43(4.63) (括弧内の数値はB組)であった。
食品学 I における教育実践	2017 前期	初めに 15 回分の予習·復習に使用できる自作課題プリント(A4 で
		49 頁)を配布し、講義資料は毎回パワーポイントスライドの印刷物を
		配布した。成績評価は、最後に提出してもらった課題プリント(30点)
		と期末試験(70点)で行った。課題プリントの30点分があったせいか、
		A 組の平均点が 86.3 点、B 組の平均点が 85.8 点と前年度よりも高く
		なった。
管理栄養士国家試験の受験直前対策における教育実践	2017.5.9	平成 29 年 3 月 19 日(日)実施の第 31 回管理栄養士国家試験の直前
		1週間(3/13~3/18,実質5日間)に、直前3回の管理国試模擬試験での
		低得点者(200 点中 105 点以下,平均 98.8 点)の学生 22 名を対象に直
		前対策講座を行い、5日間で平均27.3点の得点上昇を導き、国家試験
		合格率の向上に寄与した(前年 49.4%→76.9%)。

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
スタディ生化学 第9章 タンパク質・アミノ酸の基礎 第10章 タンパク質・アミノ酸の代謝	共	2021.8.20	㈱建帛社	長原和早期 長原和早期 東貫林東越 小林來越 宮十九信一	【編著者】 渡邊敏明	76-88 頁 89-102 頁 (27 頁)

食べ物と健康 三訂マスター食品学 I 日本食品標準成分表2020年版(八訂)準拠 第2章 食品成分表	共	2021.4.20	(株)建帛社	安浦 海鬼 竹 福福山 由 清	【編者】 小関正道 鍋谷浩志	13-36 頁 (24 頁)
Stimulatory effects of microalgae on the secretion	共	2019.12	Algal Resources	Y. Yamaguchi		61-65 (5 喜)
of nerve growth factor (NGF) and brain-derived neurotrophic factor (BDNF) in 3T3-L1 fibroblasts				S. Sasaki H. Takenaka		(5 頁)
脳由来神経栄養因子促進用組成物(特許出願)	共	2018.10.12		竹中裕行 山口裕司 榊 節子		(10 頁)
神経栄養因子促進用組成物(特許出願)	共	2018.10.12		竹中裕行 山口裕司 榊 節子		(10 頁)

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
電気分解における微量元素の収支に関する研究	2017.5.11	第 24 回 NMCC 共同利用研究成果発表会

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本化学会	一般正会員	1992.4~現在
日本薬学会	一般正会員	1997.4~現在
日本生化学会	一般正会員	1992.4~1993.3, 2014.4~現在
日本栄養·食糧学会	一般正会員	1993.4~現在
日本食生活学会¥	一般性会員	2012.7~現在
日本化学会生体機能関連化学部会	一般正会員	1997.4~2011.12

日本栄養改善学会	一般正会員	1992.4~1993.8
日本油化学協会	一般正会員	1992.4~1994.3
日本農芸化学会	一般正会員	1992.9~1994.3
電気化学会	一般正会員	1997.4~2006.12
日本素材物性学会	一般正会員	2001.4~2005.3
日本アイソトープ協会	一般正会員	2002.4~2014.3, 2016.4~2021.12
日本栄養·食糧学会東北支部	評議員	2011.4~2011.9(辞退)

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究	2(過去5年間)			
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
マイクロアルジェ株式会社	2021	産学連携による 共同研究	微細藻類の認知症予防機能研究	500,000
マイクロアルジェ株式会社	2019	産学連携による 共同研究	微細藻類の認知症予防機能研究	500,000
マイクロアルジェ株式会社	2018	産学連携による 共同研究	微細藻類の認知症予防機能研究	300,000
マイクロアルジェ株式会社	2017	産学連携による 共同研究	微細藻類の認知症予防機能研究	300,000
蒟蒻屋本舗株式会社	2017	産学連携による 共同研究	「ナノコン」を用いた食品の機能性研究及びレシピ開発	100,000

(2021.11.19) ボランティア研修会講師「「免疫力を高めるために」食と免疫について」(仙台白百合女子大学・2021年度出張講座)

(2017.9.3)健康づくり講演会講師「食から始めるいきいき脳~認知症予防と栄養~」(公益財団法人仙台市健康福祉事業団仙台市健康増進センター主催) テレビ出演通算 150 回

論文引用数(Citation Score)350 以上

1. 教員個別表

	職名教授	取 得 学 位 教育学修士	
氏 名 神田 あづさ	人間学部 健康栄養学科	(大 学 名) 神戸大学	(取得年月) 1994年3月

2. 教育•研究業績表

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 管理栄養士養成課程における講義および実習課目の講義内容の改善と実習内容の充実	2020.4~	講義科目および実習科目の両方において、講義の最初に本時の目的を話してから内容に入るようにしている。つまり導入を大切にした講義を行っている。さらに講義科目は、一方的な講義にならないよう、参加型で行うようにしている。実習科目においては、授業の教材や内容そのものを工夫することに重点を置き、「自ら体験し、考える」ことを重視している。そのためレジュメや資料の配布は授業への主体的な参加意欲を誘発出来ないこともあると考え、必要最低限のものを配布し、テーマごとに課題を提出させるなどして、個人の長短を細やかに確認するように努めている。また専門知識を暗記させるだけの一方的講義ではなく、発表の場を設け学生に調べることの重要性や楽しさを知ってもらえるよう努力している。さらに学生の知識・技術が向上するだけの実習ではなく、対象者を考慮した実習内容であるということや管理栄養士としての業務のあり方について力説している。

(2)過去5年間の研究業績 I 研究活動

[I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[論文・研究報告] ①睡眠と食事の関係-大学生の状況調査-	共著	2017.1.31	仙台白百合女子大学 人間発達研究センター	大久保剛、大 槻誠、若杉悠 佑		37-38 頁
②コリン化合物の認知機能への影響について	共著	2017.1.31	仙台白百合女子大学 人間発達研究センター	大久保剛、 川口真以子		39-40 頁
③管理栄養士養成課程に在籍する学生の 食生活に関する意識調査について	共著	2017.11	食生活研究誌 Vol.38 No.1	小野由里彩 佐藤比奈乃		27-41 頁
④居住形態別にみた朝食欠食習慣に及ぼす要因 について—管理栄養士過程に在籍する学生を 対象として—	共著	2019.3	食生活研究誌 Vol.39 No.3	鹿郷真奈美		58-66 頁
⑤管理栄養士を目指す女子大学生における食べすぎとストレス対処行動の組み合わせ 一満腹感各尺度を用いた検討—	共著	2020.5	食生活研究誌 Vol.40 No.4	中川 侑香千葉 梨紗		27-35 頁
⑥朝食接触頻度と食行動の関連性	共著	2021.1.30	食生活研究誌 Vol.41 No.2	鹿郷真奈美		71-79 頁
⑦教科書(栄養教育論実習)の作成		2022.3.1	光生館		編著: 大山珠美,須永美幸, 共著: 松永知恵, 神田あづさ他	①第 4 章 2,3 (58-65) ②第 6 章 3 (84-90)

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表発表を表現しています。	発表年月(西暦)	発表場所
発表アーマ ① 栄養成分表示の活用段階と関連性に関する要因について ー管理栄養士養成課程に在籍する学生を対象としてー	2017.5	食育学会 第5回学術学会(愛媛大学 農学部)
② 食事によるコリン摂取量の調査方法の検討(1)	2017.5	第 71 回 日本栄養・食糧学会大会(沖縄コンヘンションセンター)
③ 栄養教育における電子教材の研究	2017.6	栄養改善学会 第6回東海支部会学術総会(ウィンクあいち)
④ 大学生における食事と睡眠の関係について	2017.6	日本睡眠学会 第 42 回 定期学術集会
⑤ 電子教科書プラットフォームを利用した電子教材の活用	2017.8	コンピュータ利用教育学会 2017PC Conference (慶應義塾大学)
⑥ PCC イブニングセッションの企画と運営	2017.8	コンピュータ利用教育学会 2017PC Conference (慶應義塾大学)
⑦ 管理栄養士養成課程における電子教科書と電子教材活用の提案	2017.9	第 64 回日本栄養改善学会学術総会(アスティ徳島)
⑧ 食事によるコリン摂取量の調査方法の検討(1)	2017.9	第 64 回日本栄養改善学会学術総会(アスティ徳島)
9 男女によるコリン摂取量の違いについて	2017.9	第 64 回日本栄養改善学会学術総会(アスティ徳島)
⑪ 管理栄養士課程に在籍する学生の食生活に関する意識調査について	2017.9	第 64 回日本栄養改善学会学術総会(アスティ徳島)
① A case study of the e-book distribution service in a nursing school/看護師養成校におけるデジタル教科書サービスの事例	2017.9	A UOW International Forum on Artificial Intelligence in the Era of Big ata/ビッグデータ時代の知性:UOW フォーラム(オーストラリアウロンゴ大学)

① 大学生における食事と睡眠の関係について(第2報)	2017.10	第 51 回日本栄養·食糧学会東北支部大会(LPU: 弘前駅前交流施設)
③ Google フォームを活用した相互評価法の試み	2017.10	第 2 回 国際 ICT 利用研究学会 研究会(立正大学)
④ 大学生における食事(栄養素)と睡眠の関係について	2017.11	第 24 回 日本未病システム学会学術総会(ワークピア横浜)
⑤ 電子書籍配信サービスによる電子教科書と電子教材の運用	2017.11	情報科学技術協会 第 14 回情報プロフェッショナルシンポジウム INFOPRO2016 JST 東京本部(サイエンスプラザ)
⑥ 看護研究指導のための協働教育の実践	2017.12	第2回 国際 ICT 利用研究学会 全国大会(ユマニテク短期大学)
① 紙芝居を活用したプレゼン習得の試み	2018.3	第3回 国際 ICT 利用研究学会 研究会(立正大学)
⑱ 栄養教育における電子教材の研究	2018.6	栄養改善学会 第7回東海支部会学術総会(ウィンクあいち)
⑨ iPad によるデジタル教科書体験会の企画と運営	2018.8	コンピュータ利用教育学会 2018PC Conference(熊本大学)
② デジタル教科書ログを活用した国試合否の分析	2018.8	コンピュータ利用教育学会 2018PC Conference(熊本大学)
② デジタル教科書システムの学習ログを活用した国家試験対策指導の提案	2018.9	第 65 回日本栄養改善学会学術総会(新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ)
② 図書館の利用促進のための授業科目との連携	2018.9	2018 私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会(ANA クラウンプラザ富山)
② デジタル教科書ログ解析による国家試験受験者の分析	2018.10	ファ富山/ 第 4 回 国際 ICT 利用研究学会 研究会(千葉商科大学)
② デジタル教科書ログによる学習行動の分析	2018.12	第 3 回 国際 ICT 利用研究学会 全国大会(日本大学)
② デジタル紙芝居によるコミュニケーション能力の育成	2019.3	第 5 回 国際 ICT 利用研究学会 研究会(千葉商科大学)
② 食育教材の作成と相互評価に関する研究	2019.6	栄養改善学会 第8回東海支部会学術総会(ウィンクあいち)
② 栄養士養成施設の短期大学生における目標指向性と就業意識の関連	2019.6	栄養改善学会 第8回東海支部会学術総会(ウィンクあいち)

② デジタル教科書利用ログによる学習習慣の可視化	2019.8	コンピュータ利用教育学会 2019PC Conference (甲南大学)
② デジタル教科書ワークセッションの企画と運営	2019.8	コンピュータ利用教育学会 2019PC Conference(甲南大学)
③ デジタル教科書学習ログによる学習傾向の見える化の試み	2019.9	第 66 回日本栄養改善学会学術総会(富山県民会館)
③ デジタル教科書導入による学生の学習習慣の可視化の活用	2019.9	第 44 回 教育システム情報学会 全国大会、(静岡大学)
② 紙芝居を活用したプレゼントレーニングの試み	2019.10	第 6 回 国際 ICT 利用研究学会 研究会(千葉商科大学)
③ PowerPoint を活用したデジタル紙芝居の制作	2019.10	PC カンファレンス北海道 2019(酪農学園大学)
④ Pad を活用したプレゼンテーション教育の試み	2019.12	パーソナルコンピュータ利用技術学会 第 14 回全国大会
③ 学生支援における食に関する教育のための基礎資料の作成 一朝食欠食習慣に及ぼす要因—	2020.5	第8回 日本食育学会学術大会(東京家政学院大学)
③ 幼稚園および保育所において食育に及ぼす絵本の効果	2020.5	第8回 日本食育学会学術大会(東京家政学院大学)
③ デジタル教科書の学習ログによる国家試験者の学習分析	2020.9	第 67 回日本栄養改善学会学術総会(紙上開催)
③ 朝食摂取頻度と食行動の関連性	2020.9	第 67 回日本栄養改善学会学術総会(紙上開催)
③ 行事食に関する実態調査	2021.6	第9回 日本食育学会学術大会(東京農業大学)オンライン開催
⑩ 魚食普及における絵本の効果について	2021.6	第9回 日本食育学会学術大会(東京農業大学)オンライン開催
Ⅱ 所属学会		
学会名	役 職	入会年月(西暦)
日本栄養改善学会	令和 3 年度(第 19 期)栄養改善 幹事	学会東北支部会 1995. 4

2006.12

日本食育学会

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究	Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)						
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)			
仙台白百合女子大学	2016 年度	仙台白百合女子大 学学内助成研究によ る共同研究(B)		32,000			

受賞

- ① 2002.7 研究奨励賞(福島学院短期大学)受賞
- ② 2004.4 学生授業評価優秀賞(福島学院大学)受賞
- ③ 2015.12 研究奨励賞(パーソナルコンピュータ利用技術学会)受賞
- ④ 2016.6 優秀論文賞(食生活研究会)受賞

講演会・研修会の講演

- ① 介護労働講習「家事援助の基本」講師(公財)介護労働安定センター:2017.7.21、28
- ② 平成30年度栄養教諭研修の講師 宮城県総合教育センター:2017.7.24
- ③ 保育参観後援会「子供の素敵な未来は食事から」(大崎市古川北町保育所):2018.6.18
- ④ ふたばの会会員講演会「子供の素敵な未来は食育から」(大崎市古川西保育所):2018.6.25
- ⑤「2018年度免許状更新講習(栄養教諭)」の講師 仙台白百合女子大学: 2018.9.29
- ⑥「2019年度免許状更新講習(栄養教諭)」の講師 仙台白百合女子大学:2019.9.28
- (7) 「2021 年度免許状更新講習(栄養教諭)」の講師 仙台白百合女子大学: 2021,10.30

非常勤講師

- ① 栄養教育論実習(盛岡大学 健康科学部 健康科学科):2019.9~2020.2
- ② 栄養教育概論(盛岡大学 健康科学部 健康科学科):2020.4~現在に至る(前期のみ)
- ③ 子どもの食と栄養(盛岡大学 文学学部 児童教育学科):2020.4~現在に至る(前期のみ)
- ④ 子どもの食と栄養(尚絅学院大学 心理・教育学群 子ども学類):2020.9~現在に至る(後期のみ)

原稿掲載

1~12月刊誌 福島の進路「食べ物のちから」(財団法人 福島経済研究所):2005.10~2006.9(1 年間計 12 回連載) PRESS LIT Vol.42,44,49,51(豊橋飼料株式会社):2010.7~2012.10(4 回掲載)

ボランティア活動

- ① 仮設地域における料理教室実施 2012.10~2015.3
- ② 仮設住宅入居者向け料理教室の講師 健康支援事業(栄養相談会)2015.4~2016.3

1. 教員個別表

フリガナ	ヤナイ カズヒコ	職名	取得学位	医学博士
氏 名	谷内 一彦	人間学部・健康栄養学科	(大学名)	(取得年月)1986 年3月

2. 教育•研究業績表

(1)過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
東北大学・医学部・医学科(薬理学・臨床薬理学)	2022年3月まで	医学部 2-4 年生に、薬の臨床的使用法や新薬の開発について講義。
東北大学・全学教育(基礎ゼミ)	2022年3月まで	東北大学の全学部 1 年生に基礎教養科目として「医薬品と医療機器の開
		発」のゼミナールを実施(2017,2020,2021 年度)
東北大学・薬学部・薬学科(臨床薬理学)	2022年3月まで	薬学部 4 年生に創薬への応用を医学的立場からの薬物療法概説。
仙台白百合女子大学	2022年4月~	1-4 年生に解剖生理学、病気と栄養等を講義

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動

1 - 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
1. Efficacy and Safety of Non-brain	共著	2022 年印刷中	Curr Top Behav	Yanai K, Yoshikawa T,		2021年10
Penetrating H1-Antihistamines for the			Neurosci.	Church MK.		月 8 日
Treatment of Allergic Diseases.						Online
	₩ *	0000 年 0 日 10 日				ahead of
2. "善玉"としてのヒスタミン:花粉症から薬	単著	2022年2月13日	東北大学出版会			print
の作用を考える			2022年2月13日			

翻訳								
翻訳書・翻訳論文等の名称	訳書・翻訳論文等の名称 単訳 発行または発表 共訳 の年月(西暦)		発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称		共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数	
学術研究発表								
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所				
1. "善玉"としてのヒスタミン			2021年10月24日	第 25 回日本心療内科学総会·特別講演				
2. 私の研究履歴書:"拡散系"薬理学研究			2021年12月9日	第 42 回日	本臨床薬理学会	年会·会長講演		
3. Molecular PET imaging and its application to drug development			2021年6月25日	第 23 回日	韓薬理学合同セ	ミナー(国際学会)		

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
(公社)日本薬理学会	顧問·理事長·副理事長·財務委員長等	1988 年 4 月
(一社)日本臨床薬理学会	年会長·評議員	1998 年 12 月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)							
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)			
日本学術振興会	2019-2022	国際共同研究 強化 B	神経変性疾患における蛋白特異的 PET 分子イメージング法の開発	14,200,000			
日本学術振興会	2022-2025	基盤研究 B	ヒスタミン系薬理学研究に残された解決すべき重要な研究課題の解明	13,500,000			
日本学術振興会	2020-2021	萌芽研究	神経疾患への応用を目指したフッ素18標識タンパク質 PET 分子プローブの開発	5,000,000			
文部科学省	2014-2018	新学術領域	蛋白特異的 PET イメージングによる神経回路破綻機序の解明 万円、代表	100,300,000			

Scopus 業績評価:文献数 365、被引用 11900、h-index59(令和4年5月31日現在)

Top Neuroscience Scientists in Japan で日本国内全研究者中 26 位にランクされている。 https://research.com/scientists-rankings/neuroscience/jp

仙台白百合女子大学の産業医としても勤務

1. 教員個別表

フリガナ	アイザワ エミコ	職 名 准教授	取 得 学 位 博士(医学)	
氏 名	相澤 恵美子	人間学部 健康栄養学科	(大学名) 東北大学	(取得年月) 2012年 3月

2. 教育•研究業績表

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
教育内容・方法の工夫 1. 食育活動としての学生への実践的指導:親子クッキング開催による幼児への食育教育の実際	2018-2019	幼稚園親子クッキング教室の開催において、親子約 40 名の参加者の調理指導を担当し、食育教育の実践を行った。また、学生の食育活動の教育指導も併せて実施。
2. 地域子育て支援講座での栄養教育	2018.12	子育て支援講座(対象 2~3 歳児)において、「親子クッキング:クリスマスケーキを作ろう!!」をテーマにブッシュドノエル作成を企画。学生も参加し親子クッキングのサポートを行うことで、地域における管理栄養士の関わりについて、実践的な体験型教育を展開した。
3. 地域高齢者への食教育講座の開催	2018.8	健康寿命を延ばす食事というテーマで 2 日間にわたり高齢者への調理実習指導及び講義を行った。学生への生きた健康教育の実践教育、企画・ 運営についての学びの場となった。
4. 管理栄養士としての国際感覚を身に付けるための取り組み	2017.5	ベトナム留学生との料理交流会企画。管理栄養学科学生とベトナム留学生による代表的な料理(日本 vs ベトナム)をつくり料理による国際交流の実施
	2019.8	カナダへの語学研修を利用し、現地の食文化、食材料などの当分や塩分調査を行い、海外との味覚について調査を行った。1 ケ月の短期留学における出発前後で食事摂取頻度調査(FFQg)を行い、どの程度の摂取頻度の変化があるのか把握し考察した。
5. 栄養アセスメントの充実	2018-2019	内臓脂肪面積測定機器、エコーを用いて脂肪肝やその他の臓器及び頸動脈のチェック、PWV (Pulse Wave Velocity)を用いた動脈硬化測定、骨密

		度計なども含めてアセスメントメニューを充実させ、FFQgによる食事摂取 分析とあわせて栄養アセスメントを行った。
6. 腸内環境測定及び腸内細菌分析を取り入れた食品摂取による影響の分析教育の導入	2018-2021	バイオマーカー、インドール、および腸内細菌測定によって、オリゴ糖やサ プリメント摂取による腸内細菌の変化及び腸内環境への影響について分
7. エクオール産生菌測定による女性の栄養摂取について検討	2020-2022	析を行い理解を深めた。 エクオール産生期の有無について測定することで、栄養ケアが変わってくることを理解し、栄養指導のスキル向上につなげる学びを深めた

(2)過去5年間の研究業績

(2/旭ム)午间の別九木順								
I 研究活動								
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数		
著書								
うつと腸内細菌	共著	2017/8	腸内フローラとメンタルヘルス	功刀浩、		P. 29-42		
			/医歯薬出版	相澤恵美子				
				辻浩和				
				朝原崇				
				高橋琢也				
				寺石俊哉				
				吉田寿美子				
				太田深秀				
				古賀賀恵				
				服部功太郎				
Eicosapentaenoic Acid Intake Associated with	共著	2019/5	IntecOpen	Emiko Aizawa,		P. 47-52		
Reduced Risk of Posttraumatic Stress Disorder			Psychological Trauma	Miho Ota,				
After the Great East Japan Earthquake and				Ikki Ishida,				
Tsunami				Norie Koga,				
				Kotaro				
				Hattori,				
				Shinji Sato,				
				Takashi				
				Asada and				

				Hiroshi Kunugi.	
論文					
Bifidobacterium and Lactobacillus Counts in the Gut	共著	2019/1	Frontiers in psychiatry	Aizawa E,	P. 1-8
Microbiota of Patients with Bipolar Disorder and Healthy Controls.			9:730	Tsuji H, Asahara T,	
Trouting Controls.				Takahashi T,	
				Teraishi T,	
				Yoshida S,	
				Koga N,	
				Hattori K, Ota M, Kunugi H.	
				Wi, Kuriugi II.	
Altered polyunsaturated fatty acid levels in relation	共著	2019/6	Translational Psychiatry	Norie Koga,	P. 208-216
to proinflammatory cytokines, FADS genotype and dietary habits in bipolar disorder			9	Jun Ogura, Fuyuko	
dietary habits in bipolar disorder				Yoshida ,	
				Kotaro	
				Hattori,	
				Hiroaki Hori,	
				Emiko Aizawa,	
				Ikki Ishida, Hiroshi Kunugi	
				Till Osili Kuriugi	
Gut permeability and its clinical relevance in	共著	2022	Neuropsychopharmacol Rep	Ishida I,	P.70-76
schizophrenia.			42	Ogura J,	
				Aizawa E,	
				Ota M, Hidese S,	
				Yomogida Y,	
				Matsuo J,	
				Yoshida S,	

				Kunugi H.	
Altered cognitive function of prefrontal cortex during error feedback in patients with irritable bowel syndrome, based on FMRI and dynamic causal modeling	共著	2012/11	Gastroenterology 143	Aizawa E, Sato Y, Kochiyama T, Saito N, Izumiyama M, Morishita J, Kanazawa M, Shima K, Mushiake H, Hongo M,	P. 1188–1198
大型自然災害後のうつ病の諸相	共著	2015/3	Depression Frontier 13	Fukudo S. 相澤恵美子, 石田深秀, 佐藤田隆, 功刀浩	P. 81-87
Possible association of Bifidobacterium and Lactobacillus in the gut microbiota of patients with major depressive disorder	共著	2016/9	Journal of affective disorder 15; 202	Aizawa E, Tsuji H, Asahara T, Takahashi T, Teraishi T, Yoshida S, Koga N, Hattori K, Ota M, Kunugi H.	P. 254–257

翻訳							
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表 (巻・号数)等(共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表			•				
発表テーマ		発表年月(西暦)			発表場所		
国際学会 Major depressive disorder and initial insulin hyposecretion in oral glucose tolerance test.			2016/7/3~5	30th The international college of neuropsychopharmacology (CINP) Soul, Korea. COEX			acology (CINP)
Bifidobacterium and Lactobacillus Counts in the Gut Microbiota of Patients with Bipolar Disorder and Healthy Controls.			2019/6	World Federation of the Societies of Biological Psychiatry 2019,			niatry 2019,
国内学会・シンポジスト Body からのシグナルは直感的意思決定にどう影響するか?過敏性腸症候群が 示す神経基盤			2015/10	第 22 回日本行動医学会学術総会 シンポジスト			
腸内フローラと鬱病			2018/11	第 14 回食品免役学会「腸内細菌と脳・神経系との関わり」			わり」
腸内環境と気分障害			2019/7	第 16 回日本うつ病学会総会 「栄養と運動と気分障害」			害」
うつ病と腸内細菌—腸-脳相関			2021/7	第 18 回日本うつ病学会総会 「腸-脳相関」			

Ⅱ 所属学会						
学会名	役職	入会年月(西暦)				
心身医学会		平成 20 年 4 月				
日本免疫学会		平成 29 年 5 月				
日本免役消化器学会		平成 30 年 4 月				
腸内細菌学会		平成 30 年 4 月				
臨床栄養協会		令和 2 年 4 月				
うつ病学会		令和3年4月				
日本栄養士会		令和3年4月				

日本栄養食糧学会	令和2年4月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)						
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)		
日本学術振興会科学研究費	2013-2016	基盤研究(C)	過敏性腸症候群の意思決定とその神経基盤 (研究代表者)	5,070000		
日本学術振興会科学研究費	2017-2019	基盤研究(C)	大鬱病における腸内細菌叢と炎症免疫及び腸管壁浸漏症候群との関係解明	4,810000		
			(研究代表者)			
日本学術振興会科学研究費	2021-2023	基盤研究(C)	幼児のストレスに及ぼす自然保育の生理学的効果に関する研究 (研究分担者)	4,160000		
日本学術振興会科学研究費	2022-2024	基盤研究(C)	腸内細菌叢 Dysbiosis 改善のための妊娠適齢期女性への栄養マネジメントの構築	4,290000		
			(研究代表者)			

1. 教員個別表

	フリガ	ナ		職 名 准教授 取 得 学 位 修士(健康栄養学)
E	£ :	名	^{ウジイエ ユキコ} 氏家 幸子	人間学部 健康栄養学科 (大学名)宮城学院女子大学 (取得年月) 2010年3月

2. 教育•研究業績表

(1) 週去 5 年间の教育表稿							
教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要					
1. 教育内容・方法の工夫							
(1) 管理栄養士養成課程における講義・実習の充実	2012 年 4 月〜 現在に至る	・給食経営管理分野では、給食管理現場での実践をもとに、実際をイメージしながら深く理解できるようにしている。また、毎回ミニテストを実施し、基本事項について確認しながら進めている。 ・給食経営管理実習は、アクティブ・ラーニング形態の授業である。実習前には衛生管理のテストを行い、大量調理現場の衛生管理について十分な知識をもって実習に臨むようにしている。さらに事前準備から少人数グループでのきめ細かい指導を実施し、学生たちが自主的に詳細な打ち合わせを行った後に、給食を作りあげることで、大きな達成感が得られると毎回評価されている。助手を2名配置し、安全面での配慮を行ったり、指導者や支援者で共通理解をはかりながら指導に当たったりしていることも実習の充実に役立っている。また、個人課題では個別に面談を行いながら、理解するまで指導を繰り返すことで、献立作成のスキルが上がってきている様子がみられる。					
(2) 管理栄養士養成課程における臨地実習 I (必修)及びその事前事後指導の充実	2012 年 4 月~ 現在に至る	・臨地実習 I は、初めての校外実習となるので、今後の臨地実習すべてと栄養教諭の教育実習の基礎となる事前指導の役割を担っている。実習の意義や目的の理解とともに課題の設定やノートのまとめ方、お礼状の書き方など、全体指導はもちろん、その後は個別指導を細部に渡るまで行っている。特に、事前事後指導での特別講義ではレポートの内容について焦点化できない学生が多いので、添削指導に力を入れている。その結果、かなりの学生は実習時の記録やまとめや感想の記述がうまくできるようになっている。					
(3) 栄養教諭養成課程における講義の充実	2007 年 4 月~ 現在に至る	・栄養教諭として授業ができる力をつけるために、前半では自分の考えをまとめて発表したり討論したりする機会として発表やグループワークを多く取り入れ、後半では指導案に沿った模擬授業の機会を多く取り入れている。また、毎回授業での気付きを栄養教諭の視点でレポートにすることで、要点をまとめる力を養っている。					
(4) 栄養教諭養成課程における教育実習及びその事前事後指導の充実	2018 年 9 月~ 現在に至る	・栄養教諭の教育実習は1週間なので、実習に行く前に研究授業の指導案の原案と指導 資料を作成していかなければならない。そこで、研究授業の題材設定から展開等の内容 等、本来なら実習先で指導を受ける部分まで大学での指導が必要となる。私自身が栄養 教諭として実際に授業をしており、さらに食に関する指導関係の講習会で多くの講師を務					

()	5) 実践を取り入れたゼミ活動	2012 年 4 月~ 現在に至る	めた経験があるので、それを生かし、実習の打ち合わせ前後から本格的に指導を行っている。授業以外にも個別に指導を行っており、その結果、昨年度の実習ではほとんどの実習生が事前準備のよくできていること、実習での向上心が旺盛なことなどについて実習先から高評価を得ている。 ・ベガルタ仙台レディース後援会の要請を受け、選手に「白百合まごころ弁当」を届ける実践を中心に、献立作成から実際の調理まで学生の手で行ってきた。また、選手から栄養面の質問や相談を受け、おたよりカードやポスター作製など栄養サポートの実践も手掛けている。2017 年度よりベガルタ仙台レディース後援会だけではなく、㈱ベガルタ仙台と協定をむすび、2021 年度までジュニアユースチーム・ユースチームの栄養管理をサポートする実践実習活動も行ってきた。近年は、コロナ禍でチームを訪問するなどの十分な活動が行えなかったものの学生が考えた栄養クイズを実施してきた。その他、ボランティアで小学校での食育授業を実施し、自己効力感を高めている。
(()	6)卒論指導	2013 年 4 月〜現在に至る	・卒論指導では、学生の問題意識や関心ある事がらを中心にテーマを設定して指導している。 ・2016 年度は魚食普及活動として小学生向けの食育教材「みやぎ魚合わせカード」の作成を指導したり、加熱ホヤの普及に努めたりし、宮城県農林水産部と協定をむすぶことができた。その実践を引き継いで、2017 年度は魚食普及に関する卒論3グループを指導した。なかでも、小学生低学年や保育所、児童館向けの食育教材「みやぎ魚絵合わせカード」は食育教材「みやぎ魚合わせカード」の第2弾として各所から要望があって卒論で実践研究を重ねて作成したものであり、2018年度もカードの普及活動を実施した。・2018年度は、栄養教諭を目指す学生2名による卒論「学校給食指導についての学級担任の意識・実態の検討」について日本栄養改善学会(新潟市)で発表指導し、「女子大学生における果物の摂取状況と嗜好について」は日本栄養改善学会東北支部(盛岡市)で発表している。・2019年度は「りんごの皮むき体験授業による家庭への啓発効果」について日本栄養改善学会(富山市)での発表を指導し、2020年度は「高校女子ソフトボール選手への栄養セミナーの効果」について日本栄養改善学会誌上発表を指導している。・2021年度は4題の卒論指導を行い、「女子大学生の鍋物についての意識及び食べ方に関する検討」は宮城県栄養士会の研究大会誌上発表にエントリーし掲載された。
2.	作成した教科書、教材、参考書		
	管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」(㈱みらい)第 12 章「学校」 管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」第2版(㈱みらい)第 12 章「学 校」 管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」第3版(㈱みらい)第 12 章「学 校」	2018年4月 2019年3月 2020年3月 2021年3月	・管理栄養士養成大学における給食経営管理の教科書として出版され、その施設別管理の「学校給食」に関して担当した。 さらに、2019年3月、2020年3月、2021年3月の改訂版出版にも関わっている。

I 研究活動

著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
給食経営管理実習における給与栄養目標量の検討	共	2017年3月	仙台白百合女子大学紀要 21 号	目黒美紀		57~76 頁
【特集】基準を満たす献立作成の工夫	単	2017年6月	学校食事研究会編 専門誌「学校の食事」 586号			19~23 頁 16.31.34.38. 40 頁
~東日本大震災から7年~ 栄養教諭等から見る子どもたちの今	単	2018年3月	㈱少年写真新聞社 「給食ニュースブックレット」NO.1727			1頁
管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」 第 12 章 学校	単	2018 年 4 月	(株)みらい			231~242 頁
食教育を活用した FCD 研修プログラム ~持続可能な人材育成と食教育~	共	2019年1月	宮城教育大学紀要第 53 巻	小金澤孝昭 鎌田慶朗 岡 正明 小野寺 勝徳		391~402 頁
管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」 第2版 第 12 章 学校	単	2019 年 3 月	(株)みらい			231~242 頁
女子中学生と女子中学生サッカー選手の身体組成および栄 養摂取状況の比較検討	共	2019年3月	仙台白百合女子大学人間発達研究センタ 一紀要 13 号	鈴木裕一 山城秋美		11~21 頁
女子中学生サッカー選手の成長記録	共	2019 年 3 月	仙台白百合女子大学人間発達研究センタ 一紀要 13 号	山城秋美 鈴木裕一		63~69 頁
栄養士は食べ物セールスマン	単	2019 年 7 月	 学校食事研究会編 専門誌「学校の食事」 			19~23 頁
食の安全・安心に関する意識調査 女子学生とみやぎ食の安全安心消費者モニターとの比較 検討	単	2020年3月	仙台白百合女子大学紀要 24 号			29~44 頁
管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」第2版(補 訂) 第12章 学校	単	2020 年 4 月	(株)みらい			231~242 頁
コロナ禍でのピンチをチャンスに!	単	2021年4月	学校食事研究会編 専門誌「学校の食事」			47~52 頁
学校給食日誌から見る気仙沼市立小学校の献立の推移	共	2022 年 3 月	仙台白百合女子大学紀要 26 号	星由美子		33~55 頁

管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」第 3 版 第12章 学校	単	2022 年 4 月	㈱みらい			231~242 頁
翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
なし						

学術研究発表			
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所	
食生活意識調査及び児童の調理体験に関する調査の検討	2017年9月7日	第 62 回日本栄養改善学会	
低学年児童における効果的な実践授業の検討	2017年9月8日	第 62 回日本栄養改善学会	
女子大学生の飲酒の実態について	2017年9月9日	第 62 回日本栄養改善学会	
地域の水産物の利用に関する検討~魚調理頻度との関連~	2017年9月9日	第 62 回日本栄養改善学会	
魚食に親しませる授業教材開発と実践例	2017年9月9日	第 62 回日本栄養改善学会	
小学校におけるカードゲームを用いた魚食の普及の試み~「みやぎ魚合わせゲーム」を して~(一般シンポジウム・シンポジスト)	2017年9月23日	第 26 回日本脂質栄養学会	
学校給食指導についての学級担任の意識・実態の検討	2018年9月4日	第 65 回日本栄養改善学会	
女子大学生における果物の摂取状況と嗜好について	2019年5月19日	第 5 回日本栄養改善学会東北支部学術総会	
「みやぎさかな絵合わせカード」による魚食推進の効果	2019年9月7日	第 66 回日本栄養改善学会	
りんごの皮むき体験授業による家庭への啓発効果	2019年9月6日	第 66 回日本栄養改善学会	
高校女子ソフトボール選手への栄養セミナーの効果 —身体状況及び食事状況調査を して—	もとに 2020 年 9 月(誌上発表)	第 67 回日本栄養改善学会	
昭和の学校給食献立に関する比較検討〜仙台市立小学校と気仙沼市立小学校の食和と45年の献立について〜	33年 2021年10月	第 68 回日本栄養改善学会	
昭和の学校給食日誌からみる K 小学校の栄養価の推移について	2022年2月13日	第 5 回日本栄養改善学会東北支部学術総会	
女子大学生の鍋物についての意識及び食べ方に関する検討	2022年2月26日	第 56 回宮城県栄養士研究大会	
Ⅱ 所属学会	•	•	
学 全 夕	公 聯	λ 全年日(邢麻)	

学会名	役職	入会年月(西暦)
栄養改善学会		1997 年 4 月
日本給食経営管理学会		2012 年 4 月
スポーツ栄養学会		2014年7月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間) 助成を受けた年度 助成金額 助成プログラム 研究テーマ 助成機関名 (西暦) (円) 人間発達研究セン 小中学生の食生活・栄養摂取・身体組成および身体活動状況の実態調査-成長期 の子どもの健 仙台白百合女子大学 2017年 470.000 ター研究 助成 康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して-(研究分担者) 人間発達研究セン 小中学生の食生活・栄養摂取・身体組成および身体活動状況の実態調査-成長期 の子どもの健 395.000 仙台白百合女子大学 2018 年 ター研究 助成 康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して(2)-(研究分担者) 小中学生の食生活・栄養摂取・身体組成および身体活動状況の実態調査-成長期 の子どもの健 人間発達研究セン 280.000 仙台白百合女子大学 2019 年 ター研究 助成 康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して(3)-(研究分担者)

3. 特記事項

【他大学 非常勤講師関係】

事項	年月				
宮城学院女子大学非常勤講師 担当科目:学校栄養教育概論	2007 年 4 月~現在に至る				
宮城学院女子大学非常勤講師 担当科目:学校栄養教育指導論	2008 年 4 月~現在に至る				
宮城学院女子大学非常勤講師 担当科目:教職実践演習	2013 年 4 月~現在に至る				
学校法人青淵学園 東都大学非常勤講師 担当科目:学校栄養教育論	2020年6月~2021年6月				
東北生活文化大学非常勤講師 担当科目:給食経営学	2021年12月~2022年1月				

【シンポジウム・講演・研修会講師関係】

「楽学プロジェクト」「栄養士の仕事」に関する職業講話等仙台市教育委員会・楽学プロジェクト委員会(2013 年度~現在に至る・2020 年コロナ禍により中止)

仙台市立旭丘小学校 5年生 防災関係授業「防災食(ポリ袋を使って)の調理実習」(2015年8月~2019年まで毎年実施・2020年~コロナ禍により中止)

宮城教育大学附属小学校 4 年生 学級活動(食育)授業) 講師 (4 クラス実施)「皮むき名人になろう!」(2016 年 7 月~コロナ禍により中止中)

ほやセミナー 講師「ホヤを使った料理」青森県・青森県立保健大学 於:青森県立保健大学(2017年1月)

平成 28 年度太白区子どもの食と歯の健康づくり研修会 講師「子どもを育てる食環境とは」太白区健康福祉センター家庭健康課(2017年2月)

2017年度 みやぎ県民大学講座 骨を元気にする—骨はからだの母親— 講師(2017年7月)

平成 29 年度 学校給食調理実技講習会講師「ほやを使った給食向け献立」:(公財)宮城県学校給食会(2017 年 8 月)

平成 29 年度 給食施設栄養士研修会 講師 食事摂取基準 2015 を活用した栄養管理について~食事評価を中心に~: 仙台市保健所(2017 年 10 月)

仙台市立東二番町小学校 5 年生 学級活動(食育)授業) 講師 (4 クラス実施) 「皮むき名人になろう! (2017 年 11 月)

みやぎの環境保全米「赤とんぼ食堂」講師「一環境保全米と味噌一」:環境保全米ネットワーク 於:エル・パーク仙台「食のアトリエ」(2018年1月)

ニコニコにしやまっ子クラブ 講師「お弁当教室~マイ・サイズのお弁当づくりをしよう!~(調理実習含む)」:仙台市立西山小学校(2018年2月)

平成 30 年度 塩釜保健所岩沼支所管内保育所給食研究会研修会 講師「今、保育所給食に求められること」於:岩沼市中央公民館(2018 年 5 月)

2018 年度 みやぎ県民大学講座 食と健康―ロコモに負けないからだづくり― 講師(2018 年 7 月)

榴ヶ岡市民センター主催講座:介護をなさっている方たちへ「とっておきの時間」特別編 講師 於:みやぎ生協榴岡店調理室(2018年10月&11月・2019年11月)

食育フォーラ In 気仙沼 講演講師・宮城県気仙沼保健福祉事務所 於:気仙沼合同庁舎(2019 年 1 月)

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス「講座仙台学 2019」 戦中戦後の学校給食 仙台編(2019 年 1 月)

ベターホーム協会講師へのホヤ料理講習会(2019年5月)

仙台白百合女子大学地域貢献センター事業「海鞘(ほや)料理を楽しもう」(2019 年 8 月)

石巻地区保育協議会 2019年調理員・用務員研修会講師 於:河北総合センター(2019年9月)

宮城県 栄養教諭 新任研修会講師 於:宮城県総合教育センター(2019年10月)

袋原学区民体育振興会 講演会講師「スポーツ栄養の基本とお弁当づくりのコツ」於:袋原コミュニティーセンター児童館(2019 年 11 月)

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス「講座仙台学 2019」 戦中戦後の学校給食 仙台編(2020 年 1 月)

宮城教育大学附属小学校 公開研究会 指導助言(2020年2月)

宮城県 栄養教諭 新任研修会講師 於:宮城県総合教育センター(2020年10月)

東都大学管理栄養学部管理栄養学科「学校栄養指導論」ゲストスピーカー(2020 年 12 月 & 2021 年 1 月)

宮城県 幼稚園教諭 新任・中堅研修会講師 於:宮城県総合教育センター(2021年7月)

宮城県 栄養教諭 新任・中堅研修会講師 於:宮城県総合教育センター(2021年9月)

令和3年度みやぎの環境保全米新米発表会 講話(2021年10月)

令和3年度学校保健課題解決研修会 講演講師(2021年11月)

【その他社会的活動関係】

早寝・早起き・朝ごはん 実行委員	早寝·早起き·朝ごはん実行委員会 in 宮城	2008 年 4 月~現在に至る
宮城県学校給食会 評議員	公益財団法人 宮城県学校給食会	2012 年 4 月~現在に至る
宮城県学校給食会 評議員選定委員	公益財団法人 宮城県学校給食会	2012 年 4 月~現在に至る
宮城県学校給食『伊達な献立』コンクール審査委員(2次審査副委員長)	宮城県教育委員会・公益財団法人 宮城県学校給食会	2013 年~2019 年

みやぎ食の安全安心推進会議委員	宮城県	2013年5月1日~現在に至る
宮城県小児保健協会理事	宮城県小児保健協会	2014 年~現在に至る
ベガルタ仙台レディース後援会 副会長	ベガルタ仙台レディース後援会	2017 年~現在に至る
大学生活協同組合みやぎインターカレッジコープ 代表理事・理事長	みやぎインターカレッジコープ	2020 年~現在に至る
仙台白百合女子大学同窓会 副会長	仙台白百合女子大学同窓会	2020 年~現在に至る

1. 教員個別表

フ	リガナ	スガワラ シオリ	職名	准教授	取得学位	博士(生活環境学	学)	
氏	名	菅原 詩緒理	人間学部	健康栄養学科	(大学名)	奈良女子大学	(取得年月)	2016年 5月

2. 教育・研究業績表

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 講義「臨床栄養学Ⅱ」	2016年~現在 に至る	1. 健康栄養学科 2 年前期の必修科目。症候別・疾患別の病態と治
		療及び栄養との関連を理解する。傷病者の病態、身体状況、栄
		養状態から適切な栄養管理を行う栄養ケアプランの作成、実施、
		評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解する。また、
		傷病者の治療に効果的な栄養管理方法について学ぶ。医歯薬出
		版の『エッセンシャル臨床栄養学第8版』を使用し、現場管理
		栄養士経験の豊富な非常勤講師と講義を進めることで、理論と
		実践の両面から教えることができる。
	2016 年~現在	2. 健康栄養学科 2 年後期の必修科目。病態の理解を踏まえ、病態
2. 講義「臨床栄養学実習 I 」	に至る	別の献立作成と調理について理解する。医歯薬出版社の『臨床
		栄養学、食事療法の実習』、文光堂の『糖尿病食事療法のため
		の食品交換表』を使用した。現場管理栄養士と共に実習を行う
		ことで、実際に現場で行われている給食・栄養管理を行うこと
		ができた。
3. 講義「臨床栄養学実習Ⅱ」	 2016 年~現在	3. 健康栄養学科 3 年前期の必修科目。傷病者の身体状況・病態,
	に至る	薬剤の服用状況,摂食機能や要介護度等を含めた身体状況,生
		活・居住環境,およびその栄養状態のアセスメントに基づいた
		栄養ケアプランを作成・実施・モニタリング・評価し,それに
		基づいた栄養補給,栄養教育を関連専門職との連携の下に行う

		ことができるようにする。建帛社の『臨床栄養学実習-フロー
		チャートで学ぶ臨床栄養管理ー』 改訂版を使用し、科目後半は
		現場管理栄養士の実習となり、より実際に基づいて実習を行っ
		<i>t</i> =。
. 講義「栄養アセスメント」		 4. 健康栄養学科2年後期の必修科目。症候別・病態別の栄養管理
	2016 年~現在	法におけるアセスメントが理解できることを目的に、症例検討
	に至る	
		や経腸・静脈栄養を中心に講義を進めた。臨床栄養管理におい
		て管理栄養士業務の要となる科目である。症例検討を取り入れ、
		想像力を養うことを意識した。経腸・静脈栄養では、現場で用
		いられている栄養剤を使用し、内容の理解を深めた。
┃ ┃5. 講義「事前事後指導Ⅰ」・「臨地実習指導(臨床栄養学)」	2016 年~現在	 5. 健康栄養学科3年通年の必修科目。 臨地実習の事前事後学習を中
	2010 年で現在 に至る	心に進め、それぞれの実習で修得した知識・技能を確かなものに
	1-11	する。管理栄養士として就職するにあたり、実習経験はどの職種
		に進むのかを大きく左右すると考えられる。そのため、事前に面
		談を行い、実習の目的や実習をどうとらえているのかを引き出し
		た。また、実習後の報告会では、通り一遍の報告ではなく、自分
		の目的に対しどのように取り組めたのか、具体的に報告するよう
		 指導した。
 6. 教科書『臨床栄養学』<ステップアップ栄養・健康科学シリーズ>	2017年9月~	11.0 0 1
○ が17日 岬	現在に至る	
		す教科書の執筆に携わった。

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	共著者名 (共著の場 合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[論文] 1. 非アルコール性脂肪性肝疾患 (non-alcoholic fatty liver disease: NAFLD) における 6 ヶ月間の栄養食事指導による病態改善効果	共著	2015 年	食品·臨床栄養(Food and Clinical N utrition)	<u>菅原詩緒理</u> 、 赤羽たけみ 他2名		1-9 頁
2. 血漿リン脂質脂肪酸中の n-3 系多価不飽和脂肪酸の低値は HOMA-IR の高値と関連する	共著	2016 年	日本栄養・食糧学会誌(69)	<u>菅原詩緒理</u> 、 赤羽たけみ 他2名		11-19 頁
3. 高校女子運動選手における血中へモグロビン値と摂取栄養素の関連	単著	2017 年	人間発達研究センター紀要	<u>菅原詩緒理</u>		25-32 頁
4. Low Levels of linoleic acid and alpha-linolenic acid and high levels of arachidonic acid in plasma phospholipids are associated with hypertension	共著	2017 年	Biomedical Reports	<u>菅原詩緒理、</u> 他1名		69-76 頁
5. 生活習慣病における脂質の栄養療法	単著	2018 年	日本脂質栄養学会誌	<u>菅原詩緒理</u>		7-13 頁
6. Association of Intake of Dietary Vitamin C and Vegetables with Non-Alcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD) In Middle-Aged Japanese Men		2019 年	Association of Intake of Dietary Vitamin C and Vegetables with	<u>菅原詩緒理、</u> 他1名		111–120

			Non-Alcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD) In Middle-Aged Japanese Men		
7. 東日本大震災の被災地における睡眠状況について 一 継続的な睡眠状況の調査例(気仙沼市と陸前 高田市) —	共著	2019 年	睡眠環境学会誌	<u>菅原詩緒理、</u> 他2名	
8. 子育て中の保護者の食生活における実態調査	共著	2021 年	人間発達研究センター紀要	<u>菅原詩緒理、</u> 他2名	
9. 高校生運動選手における中鎖脂肪酸摂取の 疲労軽減作用	共著	2022 年	運動とスポーツの科学	<u>菅原詩緒理、</u> 他2名	
10. NAFLD/NASH の発症と進行に係る栄養食事療法の実状	共著	2022 年	栄養 Trends of N utrition	<u>菅原詩緒理</u>	
11. 女子高校生運動選手の貧血発症に係わる主 な栄養学的因子	共著	2022 年	運動とスポーツの科学	<u>菅原詩緒理、</u> 他2名	

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	共訳者名 (共訳の場 合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
『臨床栄養学』<ステップアップ栄養・健康科学シリーズ>	共著	2017年9月刊行	化学同人	岩川裕美、中 東真紀、東山		

		幸恵、永井亜
		美子
学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 女子高校生バスケットボール部員における鉄欠乏性貧血と摂取栄養素の関連	2016. 9	第 63 回日本栄養改善学会学術総会
2. 管理栄養士養成課程に在籍する大学生の睡眠状態について	2016. 9	第 63 回日本栄養改善学会学術総会
3. メタボリックシンドロームにおける血漿リン脂質中のパルミトオレイン酸と摂取栄養素の関連	2016. 9	日本脂質栄養学会第 25 回大会
4. 管理栄養士養成課程に在籍する女子大学生の睡眠状況について	2016. 9	第 25 回日本睡眠環境学会学術大会
5. 摂取速度が血糖値に与える影響	2016. 10	第 36 回日本肥満学会学術大会
6. 化学療法センター外来患者における栄養問題の実態	2017. 1	第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会
7. 運動選手における鉄欠乏性貧血に関連する栄養学的因子	2017. 1	第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会
8. 運動選手における栄養指導の有用性	2017. 1	第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会
9. 早食いによる生理的な影響の検証	2017. 1	第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会
10. 運動パフォーマンスを向上させるための栄養指導の確立に向けて	2017. 1	第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会
11. 外来2型糖尿病患者における栄養素等摂取状況と性差の関連	2017. 1	第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会
12. 女子大生における睡眠と食事摂取状況の関連について	2017. 5	第 71 回日本栄養・食糧学会大会
13. 隠れ肥満と摂取栄養素の関連	2017. 5	第 71 回日本栄養・食糧学会大会
14. 血圧の上昇と血漿リン脂肪酸組成の関連	2017. 5	第 71 回日本栄養・食糧学会大会

	T	
 15. 若年女性における隠れ肥満に影響を及ぼす栄養学的因子	2017. 10	第 51 回日本栄養・食糧学会東北支部会
16. 味覚感度に影響を及ぼす食生活因子の検証	2017. 10	第 51 回日本栄養・食糧学会東北支部会
17. 女子高校生バスケットボール部員における鉄欠乏性貧血と摂取栄養素の関連	2017. 10	第 51 回日本栄養・食糧学会東北支部会
18. 高齢2型糖尿病患者における中鎖脂肪酸摂取の有効性の検討	2019. 1	第 22 回日本病態栄養学会年次学術集会
19. 運動性貧血が脂質代謝に及ぼす影響	2019. 5	第 73 回日本栄養・食糧学会大会
20. 運動選手を対象にした栄養介入による貧血改善	2019. 5	第 73 回日本栄養・食糧学会大会
21. 運動選手を対象とした鉄欠乏性貧血予防の栄養指導効果の検証	2019. 5	第 73 回日本栄養・食糧学会大会
22. 子育て中の保護者の食に関する実態調査	2019. 9	第 66 回日本栄養改善学会学術総会
23. 肥満患者に対し食行動質問票を使用した効果の検討	2019. 11	日本糖尿病学会第 57 回東北地方会
24. 高齢2型糖尿病患者の中鎖脂肪酸摂取は肝機能改善効果を示す	2020. 9	日本脂質栄養学会第 29 回大会
25. 子育て中の保護者の食に関する実態調査 (第2報)	2020. 9	第 67 回日本小児保健協会学術集会
26, 高校生運動部員における運動前後の体内代謝の変化と食事摂取量の実態	2020. 10	第 68 回日本栄養改善学会学術総会
27. Factual Investigation on the Parent-Child Diet and Nutrition for Children in All Kindergartens of Shirayuri Gakuen	2022. 8	ACD2022
28. The effect of dietary medium-chain triglycerides for high school sports club students	2022. 12	ICN2022
29. Factual Investigation on the Parent-Child Diet and Nutrition for	2022. 12	ICN2022

Children in All Kindergartens of Shirayuri Gakuen	

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本栄養士会	一般正会員	平成 15 年 4 月
日本栄養改善学会	一般正会員	平成 20 年 4 月
日本栄養・食糧学会	一般正会員	平成 20 年 4 月
日本病態栄養学会	一般正会員	平成 20 年 4 月
日本脂質栄養学会	評議員	2020年1月1日~2022年12月31日
日本経腸栄養学会	一般正会員	平成 23 年 4 月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究	究(過去5年間)			
助成機関名	助成を受けた 年度 (西暦)	助成プログラ ム	研究テーマ	助成金額 (円)
仙台白百合女子大学	2016 年	人間発達研究 センター(共同 研究)	女子大学生の健康・体力調査プロジェクト	185,000円
仙台白百合女子大学	2017 年	人間発達研究 センター(個人 研究)	運動選手における鉄欠乏状態の改善に向けた栄養指導の有用性の検証	191,000円
仙台白百合女子大学	2018 年	人間発達研究 センター(共同 研究)	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	395, 000 円
仙台白百合女子大学	2019 年	人間発達研究 センター(共同 研究)	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	300,000円
東北大学 東北メディカル・メガバンク機構	2019 年		一般成人を対象とした食物摂取頻度調査票および 24 時間思い出し Web 食事調査の妥当性・再現性の検証	3, 200, 000円
日本学術振興会	2019 年		アドオンゲノムコホートによるアトピー性皮膚炎と自閉スペクトラム症の戦略 的病態解明	800,000円

仙台白百合女子大学	2020 年	人間発達研究 センター(共同 研究)	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	250, 000 円
日本学術振興会	2020年	77707		300,000円
東北大学 東北メディカル・メガバンク機構	2021 年		妊婦を対象とした食物摂取頻度調査票および 24 時間思い出し Web 食事調査の妥当性・再現性の検証	1, 400, 000円
日本学術振興会	2021 年			1, 500, 000円
仙台白百合女子大学	2021 年	人間発達研究 センター (共同 研究)	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	273, 500 円
仙台白百合女子大学	2021 年	学長裁量予算	SPAC (Student Progress After Covid) ゼミの開講	100,000円

- ・第64回日本栄養・食糧学会トピックス演題選定(2010年5月)
- ・第65回日本栄養・食糧学会トピックス演題選定(2011年5月)
- ・保健指導担当者研修 修了 第 115 号 [社団法人 日本栄養士会 (2008 年 8 月 24 日)]
- ・日本栄養士会災害支援栄養チーム(JDA-DAT) リーダー研修 修了 第 23-436-1 号〔社団法人 日本栄養士会(2012 年 2 月 19 日)〕
- ・奈良女子大学女性キャリア教育講演会(2014年10月4日)
- ・東北生活文化大学短期大学部非常勤講師(2016年4月~現在に至る)
- ・オンキャンパス社会人講座(2016年7月16日)
- ・日本脂質栄養学会 栄養マネジメント賞受賞講演(2017年9月22日)
- ・仙台赤門短期大学看護学科非常勤講師(2018年4月~現在に至る)
- ・国立大学法人東北大学非常勤講師(2020年1月~現在に至る)
- ・日本脂質栄養学会第29回大会シンポジウム(2020年9月)
- ·宮城県警察本部警務部厚生課企画講演会(2020年10月)
- ・仙台白百合女子大学人間発達研究センター 研究推進委員 委員長 (2020年~)

1. 教員個別表

フリガナ	スズキ ヨシノリ	職 名 准教授	取 得 学 位 博士(医学)
氏 名	鈴 木 寿 則	人間学部健康栄養学科	(大学名) 東北大学 (取得年月) 2005年3月25日

2. 教育•研究業績表

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
① 教育内容・方法の工夫		
・管理栄養士国家試験受験資格の指定科目「公衆衛生学」の教育実践	2010-2022 年度	健康栄養学科の学生を対象として2クラスそれぞれに授業を行った。
		教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それ
		ぞれの課題に対する改善を行っている。
・管理栄養士国家試験受験資格の指定科目「健康管理概論」の教育実践	2010-2022 年度	健康栄養学科の学生を対象として2クラスそれぞれに授業を行った。
		教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それ
		ぞれの課題に対する改善を行っている。
・管理栄養士国家試験受験資格の指定科目「社会保障論(2017 年度より現	2010-2022 年度	健康栄養学科の学生を対象として2クラスそれぞれに授業を行った。
科目名に変更)」の教育実践		教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それ
		ぞれの課題に対する改善を行っている。
・食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格(任用資格)の指定科目「公衆	2010-2022 年度	(上記「公衆衛生学」と同上)
衛生学」の教育実践		
・食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格(任用資格)の指定科目「衛生	2010-2022 年度	健康栄養学科の学生を対象として授業を行った。
法規(2017年度より現科目名に変更)」の教育実践		教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それ
		ぞれの課題に対する改善を行っている。
・保育士資格の指定科目「社会福祉学」の教育実践	2012-2022 年度	人間発達学科の学生を対象として授業を行った。なお健康栄養学科およ
		びグローバル・スタディーズ学科の学生は共通科目とし授業を行った。
		教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それ
		ぞれの課題に対する改善を行っている。

・社会福祉士国家試験受験資格の指定科目「社会保障論 I 」の教育実践	2017-2019 年度	心理福祉学科の学生を対象として授業を行った。
		教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それ
		ぞれの課題に対する改善を 2019 年度まで行った。
・社会福祉士国家試験受験資格の指定科目「社会保障論 II 」の教育実践	2017-2019 年度	心理福祉学科の学生を対象として授業を行った。
		教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それ
		ぞれの課題に対する改善を 2019 年度まで行った。
・介護福祉士国家試験受験資格の指定科目「社会保障論Ⅰ」の教育実践	2017-2019 年度	(上記「社会保障論 I 」と同上)
②作成した教科書、教材、参考書		
・衛生・公衆衛生学 2022(第3章および第8章を執筆)	2022 年 3 月	法令について加筆・修正をして解説するとともに、市町村における保健活
		動についてのアプローチについて詳細に述べた。
・健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 2022-2023 改訂第7版(第9	2022 年 3 月	新型コロナウィルスの感染拡大を踏まえ、保健所の役割および機能につ
章を執筆)		いて述べ、市町村の保健活動について解説した。
・「Active Aging 健康管理学-予防医学の視点から-」(第 3 章「健康づくり	2021年4月	疫学について初心者でも理解しやすいように加筆修正を行い、健康危機
施策」を執筆)		管理としての新型コロナウィルス対策について加筆した。
・「衛生・公衆衛生学 2021」(第3章「保健・医療・福祉における行政の仕組み	2021年3月	平成 30 年度の管理栄養士養成コア・カリキュラムに内容を沿わせるべく、
と法規」および第9章「地域保健-地域住民の健康と行政の役割」を執筆)		第 3 章の法規では直近改正の内容を盛り込み、第 9 章の地域保健では
		新型コロナウィルスに対する地域保健の現状および役割について加筆し
		<i>t</i> =。
・「健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 改訂第6版」(第9章「地域	2020年3月	平成 30 年度の管理栄養士養成コア・カリキュラムに内容を沿わせるべく、
保健」を執筆)		地域保健における保健所および市町村保健センターの役割について記
		し、医療保険者におけるデータヘルス計画について解説した。
		平成 30 年度の管理栄養士養成コア・カリキュラムに内容を沿わせるべく、
・「衛生・公衆衛生学 2020」(第3章「保健・医療・福祉における行政の仕組み	2020年3月	関連法規については直近改正の内容を盛り込み、地域保健では健康危
と法規」および第9章「地域保健一地域住民の健康と行政の役割」を執筆)		機管理等について加筆した。
·「Active Aging 健康管理学」(中国語翻訳·出版)	2019年10月	2017 年 4 月に発行した「Active Aging 健康管理学」を中国語に翻訳し

		科学出版社(北京)より発行した。
- - ・日本栄養改善学会「平成 30 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業(コ	2019年3月	 管理栄養士養成施設におけるカリキュラムの在り方及び内容等について
ア・カリキュラム検討事業)「教育養成領域での人材育成」報告書」(「B 社会		委員として検討・執筆し、今後の管理栄養士養成に係るカリキュラムの在
と栄養」を担当)		り方について報告書として発表した。
・「衛生・公衆衛生学2019」(第3章「保健・医療・福祉における行政の仕組み	2019年3月	関連法規については直近改正の内容を盛り込み、地域保健についてはデ
と法規」および第9章「地域保健ー地域住民の健康と行政の役割」を執筆)		ータヘルス計画等について加筆した。
・「社会保障 第6版」(第4章「わが国の医療保険制度の現状と課題」を執	2019年2月	わが国の医療保険制度を概説するとともに、直近の医療制度改革及び地
筆)		域包括ケアシステム等を加筆した。
「衛生・公衆衛生学 2018」(第3章「保健・医療・福祉における行政の仕組み	2018年3月	公衆衛生関連法規として、新たに公的年金制度および社会保障制度に関
と法規」および第9章「地域保健-地域住民の健康と行政の役割」を執筆)		する改正法を追加し、福祉・介護関連法規についても記した。
・「Active Aging 健康管理学」(第3章「健康づくり施策」を執筆)	2017年4月	わが国の健康づくり施策、健康づくりと予防医学の考え方、スクリーニング
		や健康教育、疫学の目的とデザインについて概説した。
「社会保障 第 5 版」(第 4 章「わが国の医療保険制度の現状と課題」を執	2017年3月	わが国の医療保険制度を概説するとともに「社会保障・税の一体改革」の
筆)		動向を踏まえ、医療、介護に関連する社会保険制度、公衆衛生の制度に
		ついても記した。
・「衛生・公衆衛生学2017」(第3章「保健・医療・福祉における行政の仕組み	2017年3月	第 3 章では直近に改正及び制定された法律とその概要を加筆した。また
と法規」および第9章「地域保健ー地域住民の健康と行政の役割」を執筆)		第9章では地域保健における医療保険者としてのPDCAサイクル、ポピュ
・「衛生・公衆衛生学2016」(第3章「保健・医療・福祉における行政の仕組み	2016年3月	レーション・アプローチについて加筆した。
と法規」および第9章「地域保健ー地域住民の健康と行政の役割」を執筆)		第3章では公衆衛生関連法規、特に難病等に関する法律、食品衛生に関
		する法規を加筆した。

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
【2022(令和 4)年度 5 月末まで】						
データから見たみやぎの健康 概要版 一令和3年		2022 年 5 月	宮城県保健福祉部健康推進			p.1-18

度版一		課			
【2021(令和 3)年度】					
・衛生・公衆衛生学 2022(第3章・第8章を執筆)	2022年3月	アイ・ケイコーポレーション		山本玲子 編	p.25-36
・健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康					p.140-145
2022-2023 改訂第7版(第9章を執筆)	2022年3月	南江堂		辻一郎、吉池信男 編	p.249-257
·「Active Aging 健康管理学-予防医学の視点から					
ー」(第3章「健康づくり施策」を執筆)	2021年4月	八千代出版		岡田悦政 編	p.26-42
【2020(令和 2)年度】					
·「衛生·公衆衛生学 2021」(第 3 章「保健·医療·福					
祉における行政の仕組みと法規」および第9章「地	2021年3月	アイ・ケイコーポレーション		山本玲子 編	p.25-36
域保健一地域住民の健康と行政の役割」を執筆)					p.140-145
・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費					
分析事業(第2章「令和2年度 大分県の国民健康	2021年3月	大分県福祉保健部国保医療			p.5-20
保険における医療受診分析」を執筆)		課			
・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費					
分析事業(第3章「医療受診率の経年変化」を執筆	2021年3月	大分県福祉保健部国保医療			p.21-30
執筆)		課			
・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費					
分析事業(第6章「人口知能(AI)による脳血管疾患	2021年3月	大分県福祉保健部国保医療	NEC 第一官		p.66-76
発症リスク分析」)		課	公ソリューショ		
			ン事業部		
【2019(令和元)年度】					
・宮城県市町村における糖尿病および合併症の医					
療費分析	2020年3月	仙台白百合女子大学紀要 24			p.69-82
·「衛生·公衆衛生学 2020(第 3 章「保健·医療·福		号			

##における行政の仕組みと法規はおど第9 章性地域保健一地域住民の健康と行政の役割を執筆) ・「健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 改 訂第6版[第9 草地域保健と執筆) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第2 草「令和元年度 医療受診分析」を執業) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第3 草) 医療受診率の経年変化」を執業 ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第5 草 「人工知能(A))による虚血性心疾患リスク分析」 ・大分県の産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用 による医療費分析事業(第2 草「平成30 年度大分県の国民健康保険に表すり表達所)を検索を会議会 第2019年10月 第78 回日本公衆衛生学会総会(高知) 2019年3月 大分県福祉保健部国保医療 課 2019年3月 大分県福祉保健部国保医療 課 第2019年3月 大分県福祉保健部国保医療 第2019年3月 大分県福祉保健部国保医療 課 第2019年3月 大分県福祉保健部国保医療 第2019年3月 大分県福祉保健部国保医療 第2019年3月 大分県福祉保健部国保医療 第2019年3月 大分県福祉保健部国保医療	T T	1				
・「健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 改 訂第 6 版」(第 9 章「地域保健」を執筆) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第 2 章「布和元年度 医療受診分析」を 執筆) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第 3 章「医療受診率の経年変化」を執 筆) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第 3 章「医療受診率の経年変化」を執 筆) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第 5 章「人工知能(AI)による虚血性心疾 患リスク分析」・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業 【2019 年 10 月 第 78 回日本公衆衛生学会総 会(高知) 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 課 【2018 年 7 月 東福祉保健部国保医療 課 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大分県福祉保健部国保医療 課 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 課	祉における行政の仕組みと法規」および第9章「地	2020年3月	アイ・ケイコーポレーション		山本玲子 編	p.25-36
第 6 版 1 第 9 章「地域保健を執筆)	域保健一地域住民の健康と行政の役割」を執筆)					p.140-145
・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第 2 章「令和元年度 医療受診分析」を 執筆) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第 3 章「医療受診率の経年変化」を執 筆) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第 5 章「人工知能(AI)による虚血性心疾 患リスク分析」 ・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保験等データ活用による医療費 が所事業(第 5 章「人工知能(AI)による虚血性心疾 患リスク分析」 ・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保験等データ活用による医療費分析事業 [2018(平成 30)年度] ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大 分県の国民健康保験における医療受診分析」を執 筆) ・企・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大 分県の国民健康保験における医療受診分析」を執 筆) ・企・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大 分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を 執筆)	・「健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 改					
分析事業(第 2 章「令和元年度 医療受診分析」を 執筆) 2020 年 3 月 大分県保険者協議会 p.5-20 ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第 3 章「医療受診率の経年変化」を執 筆) 2020 年 3 月 大分県保険者協議会 NEC 第一官 公ソリューショ シ事業部 ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第 5 章「人工知能(AI)による虚血性心疾 患リスク分析」・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保 険等データ活用による医療費分析事業 2019 年 10 月 第 78 回日本公衆衛生学会総 会(高知) 【2018(平成 30)年度】 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大 分県の国民健康保険における医療受診分析」を執 筆) 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 課 ことも医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大 分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆) 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 課	訂第6版」(第9章「地域保健」を執筆)	2020年3月	南江堂		辻一郎、吉池信男 編	p.248-251
 執筆)・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第3章「医療受診率の経年変化」を執業) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第5章「人工知能(AI)による虚血性心疾患リスク分析」・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業 2019年10月第78回日本公衆衛生学会総会(高知) 2019年3月 大分県福祉保健部国保医療課業 2019年3月 大分県福祉保健部国保医療による保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第2章「平成30年度大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執業) ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第2章「平成30年度大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執業) ・企・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第2章「平成30年度大分県福祉保健部国保医療課理を持定を表現を持定を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費					
・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 3 章「医療受診率の経年変化」を執筆) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 5 章「人工知能(AI)による虚血性心疾患リスク分析」 ・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業 【2018(平成 30) 年度】 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執筆) 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 課 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 はによる医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執筆) 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 はによる医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆)	分析事業(第 2 章「令和元年度 医療受診分析」を	2020年3月	大分県保険者協議会			p.5-20
(全) (第 3 章「医療受診率の経年変化」を執筆) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費 分析事業(第 5 章「人工知能(AI)による虚血性心疾 患リスク分析」 ・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保験等データ活用による医療費分析事業 (2018(平成 30)年度) ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大分県の国民健康保験における医療受診分析」を執筆) 2019年3月 大分県福祉保健部国保医療 課	執筆)					
 筆) ・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第5章[人工知能(AI)による虚血性心疾患リスク分析」 ・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業 2019年10月 第78回日本公衆衛生学会総会(高知) 2018年3月 大分県福祉保健部国保医療による医療費分析事業(第2章「平成30年度大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執筆) 2019年3月 大分県福祉保健部国保医療によび、大分県福祉保健部国保医療による医療費分析事業(第3章「平成30年度大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆) 2019年3月 大分県福祉保健部国保医療に素が、また。で・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第3章「平成30年度大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆) 	・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費	2020年3月	大分県保険者協議会			p.21-30
・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 5 章「人工知能(AI)による虚血性心疾患リスク分析」 2020 年 3 月 大分県保険者協議会 NEC 第一官公ソリューション事業部 ・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業 2019 年 10 月 第 78 回日本公衆衛生学会総会(高知) 沙録集 546 【2018(平成 30)年度】 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執筆) 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療課 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆) 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療課	分析事業(第 3 章「医療受診率の経年変化」を執					
分析事業(第5章「人工知能(AI)による虚血性心疾 患リスク分析」 ・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保 険等データ活用による医療費分析事業 2019年10月 第78回日本公衆衛生学会総 会(高知) 2019年3月 大分県福祉保健部国保医療 課 2019年3月 大分県福祉保健部国保医療	筆)					
思リスク分析」 ・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業 【2018(平成30)年度】 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第2章「平成30年度大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執筆) ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第3章「平成30年度大分県における医療受診分析」を執筆) ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第3章「平成30年度大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆)	・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費	2020年3月	大分県保険者協議会	NEC 第一官		p.39-51
・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業 2019年10月 第78回日本公衆衛生学会総会(高知) 【2018(平成30)年度】 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第2章「平成30年度大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執筆) 2019年3月 大分県福祉保健部国保医療課 上途・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第3章「平成30年度大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆) 2019年3月 大分県福祉保健部国保医療課	分析事業(第5章「人工知能(AI)による虚血性心疾			公ソリューショ		
(2018(平成 30) 年度】 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用 による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大 分県の国民健康保険における医療受診分析」を執 筆) ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用 による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大 分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を 執筆)	患リスク分析」			ン事業部		
【2018(平成 30)年度】 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執筆) ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆)	・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保	2019年10月	第 78 回日本公衆衛生学会総			抄録集 546
・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執筆) 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆) 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療	険等データ活用による医療費分析事業		会(高知)			
・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執筆) 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆) 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療						
による医療費分析事業(第 2 章「平成 30 年度 大 分県の国民健康保険における医療受診分析」を執 筆) ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用 による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大 分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を 執筆)	【2018(平成 30)年度】					
分県の国民健康保険における医療受診分析」を執 筆) ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用 による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大 分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を 執筆)	・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用	2019年3月	大分県福祉保健部国保医療			p.5-20
筆) ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 p.21-34 による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆) 課	による医療費分析事業(第2章「平成30年度大		課			
・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 p.21-34 による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執筆) 課	分県の国民健康保険における医療受診分析」を執					
による医療費分析事業(第 3 章「平成 30 年度 大 分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を 執筆)	筆)					
分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を 執筆)	・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用	2019年3月	大分県福祉保健部国保医療			p.21-34
執筆)	による医療費分析事業(第3章「平成30年度大		課			
	分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を					
・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用 2019 年 3 月 大分県福祉保健部国保医療 NEC 第一官 p.78-85	執筆)					
	・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用	2019年3月	大分県福祉保健部国保医療	NEC 第一官		p.78-85

		I	1			1
による医療費分析事業(第 9 章「異種混合学習(人			課	公ソリューショ		
工知能:AI)による2型糖尿病重症化の要因分析」)				ン事業部		
•平成30年度管理栄養士専門分野別人材育成事		2019年3月	日本栄養改善学会			p.1-111
業(コア・カリキュラム検討事業)「教育養成領域で						
の人材育成」報告書(主に「B 社会と栄養」を担当)						
・「衛生・公衆衛生学 社会や環境のシステムと健		2018年3月	アイ・ケイ コーポレーション		山本玲子 編	p.26-37
康の関わり(2018 年版)」(分担執筆:第3章、第9						p.140-145
章)						
・国保・後期高齢者ヘルスサポート事業ガイドライン						
(改定版)						
【2017(平成 29)年度】						
・社会保障 第5版(分担執筆:第4章 わが国の医		2017年3月	 弘文堂		 阿部祐二 編	p.81-109
療保険制度と課題)						
・衛生・公衆衛生学 社会や環境のシステムと健康		2017 年3月	アイ・ケイ コーポレーション		 山本玲子 編	p.25-36
の関わり(2017年版)(分担執筆:第3章、第9章)						p.14
・「Active Aging 健康管理学」(分担執筆:第3章)		2017年3月	┃ ┃八千代出版		 岡田悦政 編著	1-146
						p.17-54
翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
(なし)						
	I			l		

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
(筆頭発表限り)		
・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保険等データ活用による医療	2019年10月	第 78 回日本公衆衛生学会総会(高知)
費分析事業		
・宮城県富谷市における脳血管疾患の発症・重症化予防にむけた産官学の取り	2017年10月	第 76 回日本公衆衛生学会総会(鹿児島)
組み		

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
•日本公衆衛生学会		2001年(現在に至る)
•日本疫学会		2001年(現在に至る)
·宮城県公衆衛生学会		2010年(現在に至る)

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究	克(過去5年間)			
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
宮城県	2021 年	集計分析委託	令和3年度みやぎのデータヘルス推進事業集計・分析業務	4,290,000
		業務		
日本電気株式会社	2020 年	共同研究事業	医療費適正化に向けたデータ分析についての共同研究	1,000,000
大分県	2020 年	分析業務委託	令和2年度 産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事	7,423,350
		事業	業	
宮城県	2020 年	集計分析委託	令和2年度みやぎのデータヘルス推進事業集計・分析業務	4,290,000
		業務		
日本電気株式会社	2019 年	共同研究事業	宮城県富谷市及び大分県の医療費適正化に向けたデータ分析についての共同研	1,000,000
			究	
大分県保険者協議会	2019 年	分析業務委託	令和元年度 保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業	4,399,560

		事業		
宮城県	2019 年	集計分析業務	令和元度みやぎのデータヘルス推進事業データ集計・分析業務	4,309,360
		委託事業		
日本電気株式会社	2018 年	共同研究事業	宮城県富谷市及び大分県の医療費適正化に向けたデータ分析についての共同研	1,000,000
			究	
大分県	2018 年	分析業務委託	産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業	3,205,224
		事業		
宮城県	2018 年	集計分析業務	平成 30 年度みやぎのデータヘルス推進事業データ集計・分析業務	4,281,228
		委託事業		
日本電気株式会社	2017 年	共同研究事業	宮城県富谷市の医療費適正化に向けたデータ分析についての共同研究	1,000,000

【委員等】

- •厚生労働省 管理栄養士国家試験委員(2021(令和3)年)
- ・警察共済組合宮城県支部 健康管理アドバイザー(2020(令和2)年~)
- ・大分県データヘルス推進事業 保健・医療・介護保険等データ活用医療費分析アドバイザー(2018(平成30)年6月~)
- ・富谷市健康づくり推進協議会委員(2018(平成30)年6月~)
- ・全国健康保険協会宮城支部 健康づくり推進協議会委員(2014(平成 26)年6月~)
- ・国民健康保険中央会 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員(2017(平成29)5月~2021(令和3)年4月)
- ・北海道国民健康保険団体連合会 保険事業支援・評価委員会ワーキンググループ(2018(平成30)年4月~2021(令和3)年3月)
- ·宮城県国民健康保険団体連合会 保健事業支援·評価委員会委員(2015(平成 27)年 4 月~2019(令和元)3 月)

【講演等】

- 宮城県保健福祉部健康推進課「令和3年度みやぎのデータへルス推進事業分析結果説明会」(2022(令和4)年3月)
- ・柴田町社会福祉協議会 第5回「いこいの日」促進事業研修会「ソーシャルキャピタルと健康 ~公衆衛生を通じた健康づくり~」(2018(平成30)年2月)
- ·宮城県市町村職員共済組合事務主管課課長会議「健康経営とデータヘルス」(2017(平成 29)年 5 月)

- ・秋田県国民健康保険団体連合会 平成 28 年度東北地方在宅保健師等連絡会議「健康なまちづくりを目指したデータヘルス計画について」(2016(平成 28)年 12 月)
- ・大阪府保険者協議会 平成 28 年度特定健診・特定保健指導研修会「保健事業の評価の考え方、進め方」(2016(平成 28)年 10 月)
- ・秋田県保険者協議会 平成 28 年度医療費分析研修会「データヘルス計画における分析と事業評価」(2016(平成 28)年 10 月)
- ・岩手県 平成 28 年度特定健診・特定保健指導従事者研修「特定健診・保健指導の計画策定と評価」(2016(平成 28)年 8 月)
- ・青森県弘前市 社会保障等に関する研究会「データヘルス計画と医療費分析」(2016(平成 28)年 6 月)
- ・宮城県市町村職員共済組合事務主管課長会議「健康経営とコラボヘルスについて~データから見える健康増進~」(2016(平成 28)年 5 月)

【掲載等】

- ・兵庫県国民健康保険団体連合会 国保ひょうご 2021 年冬号 No.646「第3回 KDB システムによるデータ分析の視点」(2021(令和3)年1月)
- ・兵庫県国民健康保険団体連合会 国保ひょうご 2021 年秋号 No.645「第2回 KDB システムの活用実践」(2020(令和2)年11月)
- ・兵庫県国民健康保険団体連合会 国保ひょうご 2021 年夏号 No.644「第1回 データヘルス計画の中間評価」(2020(令和2)年9月)
- ・仙台白百合女子大学 カトリック研究所講話集第 10 号「天への祈りと「至誠」のこころ」(2020(令和 2)年 3 月)
- ・兵庫県国民健康保険団体連合会 国保ひょうご 2020 年冬号 No.642「第3回 保険事業と KDB システム」(2020(令和2)年1月)
- ・兵庫県国民健康保険団体連合会 国保ひょうご 2020 年秋号 No.641「第2回 健康課題と KDB システム」(2019(令和元)年11月)
- ・兵庫県国民健康保険団体連合会 国保ひょうご 2020 年夏号 No.640「第1回 データヘルス計画と KDB システム」(2019(令和元)年9月)

1. 教員個別表

フリガナ	ヤマシロ アキミ	職 名 准教授 取 得 学 位 修士(スポーツ科学)	1
氏 名	山城 秋美	人間学部 健康栄養学科 (大学名)仙台大学 (取得年月) 2010年 3月	

2. 教育•研究業績表

(1) 廻去 3 年间の教育未積		
教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
① 教育内容・方法の工夫		
管理栄養士養成課程における講義および実習の充実	2013 年~	応用栄養学分野において講義および実習が管理栄養士として実践に
		つながるように工夫し指導している。
		個人または集団の栄養状態を把握してその評価・判定をする「栄養アセ
		スメント」の方法などを知り、人間の健康状態(身体面)と栄養状態(食生活
		面)を改善するための「栄養マネジメント」について方法と手順などを学ぶ。
		次に、人間の胎児期から学童期に至るまで、成長に伴う身体的・精神的
		変化並びに栄養状態や食習慣などの変化について理解する。
		スポーツ栄養を通して生涯の健康づくりにつなげ、食事摂取基準につ
		いても理解を深める。
		コミュニケーションカの向上のため、発表やグループワーク等も取り入
		れている。
② 作成した教科書、教材、参考書		
教科書「応用栄養学」<ステップアップ栄養・健康科学シリーズ> 	2017 年~	応用栄養学の中で、高齢期の栄養管理について記した。在宅医療・訪問栄養指導に関わる場合の栄養ケア・マネジメントについて、実際のスク
		リーニングアセスメント等について解説した。
教科書「子どもの食べる楽しみを支援する」	2018 年~	応用栄養学分野において、特別な配慮を必要とする子どもの栄養ケア マネジメントについて、身体状況、精神心理状況をみながら個別の栄養ケ
		アと取り組みについて解説した。

I 研究活動

	听九 / 1						
	著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
1	飲料に加えた炭酸が女子大学生の消化管機能 や味覚に与える影響	共	2016年3月	仙台白百合女子大学紀要	鈴木裕一 加賀山あかり		127-138
2	運動生理学(実技・演習)を受講した女子大学 生の体組成と運動習慣に与えた効果について	単	2016年12月	仙台白百合女子大学 人間発達研究センター紀要			59-64
3	女子大学生の身体組成と筋肉量、筋力の関係 〜上肢、下肢と利き腕、利き脚による比較〜	単	2017年3月	仙台白百合女子大学紀要			77-85
4	応用栄養学	共	2017年10月	化学同人社	浅田裕一他8名		1-23
(5)	子どもの食べる楽しみを支援する	共	2018年8月	建帛社	藤谷朝実 堤ちはる 杉山みち子 小山秀夫		127-138
6	女子中学生サッカー選手の成長記録	共	2019年3月	仙台白百合女子大学 人間発達研究センター紀要	氏家 幸子 鈴木 裕一		66-69
7	女子中学生と女子中学生サッカー選手の身体 組成および栄養摂取状況の比較検討	共	2019年3月	仙台白百合女子大学 人間発達研究センター紀要	氏家 幸子 鈴木 裕一		11-21
8	女子大学生の骨格筋量と骨密度との関係につ いて	単	2020年3月	仙台白百合女子大学紀要			97–105

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表

	発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1	療養病棟におけるPEM予防・改善とNCMの構築にむけて	2005年6月	日本健康・栄養システム学会第6回大会
2	介護予防教室の効果と体格・栄養の関連	2009年10月	日本公衆衛生学会第 68 回全国大会
3	介護予防教室から自主サークルへ継続参加した参加者の効果	2009年11月	第 18 回宮城体育学会
4	行政における食育活動について	2010年12月	大崎栄養士会活動発表会
(5)	東日本大震災における栄養管理について	2011年6月	日本健康・栄養システム学会第6回大会
6		2011年9月	第 58 回日本栄養改善学会
7	東日本大震災にかかる宮城県女川町の取り組み(第1報)	2012年10月	日本公衆衛生学会第 71 回全国大会
	仮設住宅に対する食生活支援事業		
8	plane in a second of the secon	2012年10月	日本公衆衛生学会第 71 回全国大会(共同研究発表)
	避難所での食環境		
9	SIGN TO THE STATE OF THE STATE	2012年10月	日本公衆衛生学会第 71 回全国大会(共同研究発表)
	小児における生活習慣の変化		
10		2014年8月	第 61 回日本栄養改善学会
	東日本大震災後の宮城県女川町における保健事業(第1報)	2014年10月	日本公衆衛生学会第 73 回全国大会(共同研究発表)
	小児の健康増進事業		
(12)	東日本大震災後の宮城県女川町における保健事業(第2報)	2014年10月	日本公衆衛生学会第 73 回全国大会
	仮設住宅に対する食生活支援事業		
13	STEP TO THE STATE OF THE STATE	2014年10月	日本公衆衛生学会第 73 回全国大会(共同研究発表)
	第 2 次食育推進計画		
(14)		2015年6月	日本健康・栄養システム学会第 15 回大会
15	発達障害児における栄養サポートと運動の取り組み	2015年7月	第2回日本スポーツ栄養学会
16	運動生理学(実技・演習)を受講した女子大学生の体組成と運動習慣に与	2016年9月	第 63 回日本栄養改善学会
	えた効果について		
_	管理栄養士養成課程に在籍する大学生の睡眠状態について	2016年9月	第 63 回日本栄養改善学会(共同研究発表)
_	女子大学生の骨格筋量と骨量との関係、および牛乳の嗜好の影	2020年5月	日本栄養改善学会東北支部
19	こども食堂の取り組み(第一報)持続可能な双方向の関わりの検討に	2021 年 9 月	日本栄養改善学会
	ついて		
20	こども食堂における食育の現状に関する検討	2022 年 2 月	日本栄養改善学会東北支部

Ⅱ 所属学会							
学会名	役職	入会年月(西暦)					
日本栄養改善学会		1989.4					
日本健康・栄養システム学会		2005.1					
日本公衆衛生学会		2009.4					
宮城公衆衛生学会		2009.4					
日本スポーツ栄養学会		2014.4					
日本食育学会		2020.11					
日本健康教育学会		2021.5					

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)						
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)		
日本学術振興会	2014~2016		脳における味覚の情報処理メカニズムに関する神経生理学的および	4,680,000		
		成事業 	認知心理学的研究			
			分担課題 炭酸の好みに関する実験とデータ解析			

宮城学院女子大学 非常勤講師 仙台医療センター 非常勤講師 県内小中学校教育講演会 講師 宮城県体育協会指導者養成講座 講師 加美町西小野田小学校評議委員 みやぎ生活協同組合学校部 教育講演会 講師 石巻市なかよし保育園子育て支援 講師 東北楽天リトルシニア所属選手栄養管理 塩釜フード見本市実行委員 加美郡在宅医療・介護連携推進協議会委員 ピンクリボンフェスティバル仙台推進委員 みやぎ県民大学講座 講師 ウジエクリーンサービスアドバイザー NPO せんだいこども食堂 代表理事 一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会 理事

1. 教員個別表

フリガナ	ヤジマュカ	職名	講師	取得学位	修士(栄養学)	
氏 名	矢島 由佳	人間学部	健康栄養学科	(大学名)	女子栄養大学	(取得年月)

2. 教育•研究業績表

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
実習を行ううえでの安全性の整備	2006.3~	実習室内の食器、器具の管理・環境整備等は、授業を行う上で欠かせな
調理学実習のテキスト作成、実習後における確認テスト実施	2016.4~	いことであり、授業内容、学生に応じて内容を改めるように努めている。特に東日本大震災以降、防災対策を心がけている。2020 年後期からはのコロナ感染防止対策を行いつつ対面授業による実習を行っている。調理学実習 I・調理学実習 Iにおけるテキストを作成。教科書はあるものの、授業内容にそったものに集約し、実習の際に使いやすいように作成している。2016 年度から毎回の実習終了後、各内容に沿った調理科学や食品学的事項についてのペーパーによる確認問題(〇×式)を行い、2020
食品学実験 I における基礎対策と資料作成	2019.4~2021.8	学生も多い。このため、実験中の事故や安全面についてと何度も講義内 で指導を行っている。さらに、学生がスムーズに実験を進められるように、
食品学実験Ⅱ(一般分析)のテキスト作成	2016.4~2018.3	実験の原理や操作方法などを図や表にして説明、資料として配布するなど工夫を行った。 教科書では一般分析の項目が頁等はなれているため、一般分析の項目を一つにまとめ、一連の流れを把握できるようにまとめた。実験方法は、チャート式とし学生でもわかりやすいように心がけた。

(2)過去5年間の研究業績 I 研究活動

[I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 伝え継ぐ日本の家庭料理 肉・豆腐・麩のおかず		2018.2	農山漁村文化協会・別冊うかたま		企画編集:日本調理科学会	70
伝え継ぐ日本の家庭料理 炊きこみごはん・おしにぎり		2019.2	農山漁村文化協会・別冊うかたま		企画編集:日本調理科学会	44
伝え継ぐ日本の家庭料理 米のおやつともち		2019.5 2020.3	農山漁村文化協会・別冊うかたま		企画編集:日本調理科学会 企画編集:日本調理科学会	6-7 8
伝え継ぐ日本の家庭料理 そば うどん 粉もの		2020.3	農山漁村文化協会・別冊うかたま			0
[論文]	共	2009.2	 仙台白百合女子大学紀要	 髙澤まき子、		123-134
「女子大生のコンビニ弁当の利用状況と実態調 査―コンビニ弁当の内容調査からの意識づけ		2003.2	第 13 号	世永明美		
一」	 共	2010.3	 仙台白百合女子大学紀要	宮下ひろみ		173–183
身近な食品の廃棄率 —学生による測定値と食 品成分表の比較—		20.0.0	第 14 号	11000		100 170
食生活状況と味覚感度に関する研究	共	2016.2	│ │仙台白百合女子大学紀要	髙澤まき子		169–179
 身近な食品の廃棄率(第2報) - 廃棄率調査と	 共	2017.2	第 20 号 仙台白百合女子大学紀要	 髙澤まき子、		131–139
調理技術についての一考察 -		2010.0	第 20 号	宮下ひろみ		51-59
中学生の味覚感度に関する研究-大学生との味 覚感度の比較-	共	2019.3	人間の発達 仙台白百合女子 大学 人間発達研究センター	高澤まき子、		
 「報告書]			紀要 13 号	ZP-1-11H		
「 ^{報言書」} 平成 26 年度『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料	共	2015.7	 一般社団法人 日本調理科学会	髙澤まき子		18-21 24-25
理』聞き書き報告書						73-74
小中学生の食生活・栄養摂取、身体組成および身	共	2019.3	人間の発達 仙台白百合女子			89–91
体活動状況の実態調査			大学 人間発達研究センター 紀要 13 号	下ひろみ、高澤まき子、氏		
				家幸子、山城		
				秋美		

小中学生の食生活・栄養摂取、身体組成および身体活動状況の実態調査-成長期の子どもの健康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して-(2)	共	2020.3	人間の発達 仙台白百合女子 大学 人間発達研究センター 紀要14号	鈴木裕一、髙澤 まき子、氏家幸 子、山城秋美	
女子大学生を対象とした基本 5 味の味覚閾値に関する研究: 夏期と冬期の比較	共	2021.12	日本栄養·食糧学会誌 74巻·6号	高澤まき子、 鈴木祐一	297–305

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
「養液栽培におけるトマト果実の成分含量」	2004.9	第 58 回日本栄養・食糧学会大会
「女子大生のコンビニ弁当の利用状況と実態調査―コンビニ弁当の内容調査か	2008.5	日本食生活学会 第 36 回大会
らの意識づけ―」		
「食生活状況と味覚感度に関する研究」	2015.5	日本家政学会 第 67 回大会
女子大生の季節における味覚感度の変動―夏季と冬季の比較―	2016.5	日本家政学会 第 68 回大会
宮城県の家庭料理 主食の特徴	2016.8	日本調理科学会 平成 28 年度大会
―伝え継ぎたいご飯料理と餅料理およびはっとにみる食文化―		
宮城県家庭料理 おやつの特徴	2017.8	日本調理科学会 平成 29 年度大会
―地域に根ざしたおやつの味―		
大学生の正月料理における嗜好性と伝承性に関する実態調査	2018.5	日本家政学会 第 70 回大会
宮城県の家庭料理 主菜の特徴 自然の幸に恵まれた宮城のおかず	2018.8	日本調理科学会 平成 30 年度大会
宮城県の家庭料理 副菜の特徴 保存・ 加工された野菜類を用いて	2019.8	一般社団法人日本調理科学会 2019 年度大会
女子中学生アスリートの身体状況と食事の検討	2019.10	人間発達研究センター研究会
宮城県の家庭料理 行事食の特徴 ―年中行事における地域の家庭料理の特	2021.9	一般社団法人 日本調理科学会 2021 年度大会
徵—		

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本栄養・食糧学会		2003.4
日本栄養改善学会		2004.4
日本栄養士会		2004.4
日本調理科学会		2013.9
日本味と匂学会		2020.10
日本伝統食品研究会		2022.5

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)						
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)		
仙台白百合女子大学 人間発	2017		小中学生の、食生活・栄養摂取、身体組成、および身体活動状況の実態調査─成長	470,000		
達研究センター			期の子どもの健康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して一			
	2018		┃ 小中学生の、食生活・栄養摂取、身体組成、および身体活動状況の実態調査─成長 ┃	395,000		
			期の子どもの健康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して一(2)			
	2019		┃ 小中学生の、食生活・栄養摂取、身体組成、および身体活動状況の実態調査─成長 ┃	280,000		
			期の子どもの健康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して一(3)			

2013.11~2022.4 一般社団法人日本調理科会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』の調査研究者として、宮城県の特に、仙北・大崎耕土、仙南・亘理平地、 北上丘陵における現在の郷土料理、家庭料理について聞き書き調査を行い、現在 2017 年から出版。各シリーズことに出版のため、撮影や追加調査など 準備をおこなった。

2014.3~ボランティア活動

仮設住宅への料理教室を実施(日辺グラウンド応急仮設住宅、仙台市鶴巻一丁目公園仮設住宅、田子西復興公営住宅など)

- 2015.5~ 学生委員会 保健室担当企画にて実習アシスタント、参加学生へのサポート等を実施
- 2016.9 平成 28 年度フードスペシャリスト・シンポジウム準備委員(開催地:仙台市)
- 2016.9 平成 28 年度 みやぎ県民大学講座のアシスタントとして参加者への補佐・指導を実施
- 2017.7 平成 29 年度 みやぎ県民大学講座の第3回実践編の講師

2018.6 平成30年度みやぎ県民大学講座の第1回実践編の講師

2019.6~現在 公益社団法人フードスペシャリスト協会 フードスペシャリスト認定試験問題作成

2022.5~製菓衛生師試験委員